

平成19年3月の地震活動及び火山活動について

○ [地震活動]

3月25日09時41分に能登半島沖でM6.9の地震が発生し、石川県七尾市、輪島市、穴水町で震度6強を観測したほか、北海道から中国・四国地方にかけて震度6弱～1を観測しました。この地震により津波が発生し、珠洲市長橋で22cmの津波を観測しました。余震活動は北東－南西方向に約40kmにわたって分布しており、徐々に減衰しています。気象庁はこの地震を「平成19年(2007年)能登半島地震」と命名しました。

全国で震度1以上を観測した地震の回数は434回(能登半島地震の活動314回を含む)、日本及びその周辺におけるM4以上の地震の回数は120回でした。

国土地理院のGPS観測結果では、3月25日に発生した能登半島地震による地殻変動が観測されています。

震度3以上を観測するなどの主な地震活動の概況は別紙1のとおりです。また、世界の主な地震は別紙2のとおりです。

○ [火山活動]

噴火が観測されたのは、桜島及び諏訪之瀬島でした。

桜島では、南岳山頂火口で小規模な噴火が時々発生しました。諏訪之瀬島では爆発的噴火が4～5日、17日、30～31日にありました。

御嶽山では、火山性地震はやや多く、火山性微動が時々発生しています。御嶽山の火山活動はやや活発な状況が続いていますので、山頂付近では注意が必要です。

三宅島では、噴煙活動が活発で、多量の火山ガス放出が続いています。

樽前山、硫黄島、薩摩硫黄島及び口永良部島では、火山活動のやや活発な状態が続いています。

なお、霧島山の御鉢では、火山活動が静穏な状態になっています。

日本の主な火山活動の概況は別紙3のとおりです。また、世界の主な火山活動は別紙4のとおりです。

注1：国土地理院のGPSによる地殻変動観測については、国土地理院ホームページの記者発表資料「平成19年2月～3月の地殻変動について」を参照ください。

<http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/2007/goudou0409.htm>

注2：気象庁の地震活動資料には、防災科学技術研究所や大学等関係機関のデータも使われています。

注3：地震活動および火山活動の詳細については、地震・火山月報(防災編)2007年3月号(2007年4月末頃に刊行及び気象庁ホームページ掲載予定)をご覧ください。

注4：平成19年4月の地震活動及び火山活動については、平成19年5月8日に発表の予定です。

2007 年 3 月の主な地震活動^{注 1)}

番号	月 日	時 分	震央地名	深さ (km)	M	最大 震度	備考／コメント
1	3 月 7 日	21時59分	秋田県内陸北部	16	4.2	4	
2	3 月 8 日	14時03分	鳥島近海	152	6.0	2	太平洋プレート内部で発生した地震
3	3 月 9 日	12時22分	日本海北部	501	6.2	2	太平洋プレート内部で発生した地震
4	3 月 10 日	0時47分	新潟県中越地方	9	4.0	3	
5	3 月 11 日	16時09分	北海道東方沖	13	5.6	3	太平洋プレートの沈み込みに伴い発生した地震
6	3 月 18 日	10時25分	十勝沖	59	5.6	3	太平洋プレートと陸のプレートの境界付近で発生した地震
7	3 月 22 日	10時28分	埼玉県南部	78	4.2	3	太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界付近で発生した地震
8	3 月 22 日	18時27分	熊本県熊本地方	6	4.0	3	
9	3 月 23 日	22時37分	熊本県熊本地方	6	4.1	4	
10	3 月 25 日	9時41分	能登半島沖	11	6.9	6強	平成19年（2007年）能登半島地震 死者 1 人、負傷者 327 人 住家全壊 525 棟、住家半壊 774 棟、 住家一部損壊 6,414 棟 （4 月 9 日 10 時現在、総務庁消防庁による）
平成19年（2007年）能登半島地震（No.10）の地震の余震については、震度 5 弱以上を観測した地震のみ以下に掲載した							
11	3 月 25 日	18時11分	石川県能登地方	13	5.3	5弱	能登半島地震の余震
12	3 月 26 日	14時46分	能登半島沖	9	4.8	5弱	能登半島地震の余震
13	3 月 28 日	8時08分	石川県能登地方	13	4.9	5弱	能登半島地震の余震
14	3 月 30 日	5時21分	十勝支庁南部	47	4.7	3	太平洋プレートと陸のプレートの境界付近で発生した地震
15	3 月 30 日	18時05分	国後島付近	99	5.6	3	太平洋プレート内部で発生した地震
16	3 月 31 日	22時32分	宮城県北部	77	4.8	3	太平洋プレート内部で発生した地震

注 1) 「主な地震活動」とは①陸域で M4.0 以上かつ震度 3 以上の地震、②海域で M5.0 以上かつ震度 3 以上の地震、
③ M6.0 以上の地震、④以前に取り上げた地震活動で、活動が継続しているもの。

・地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会検討結果

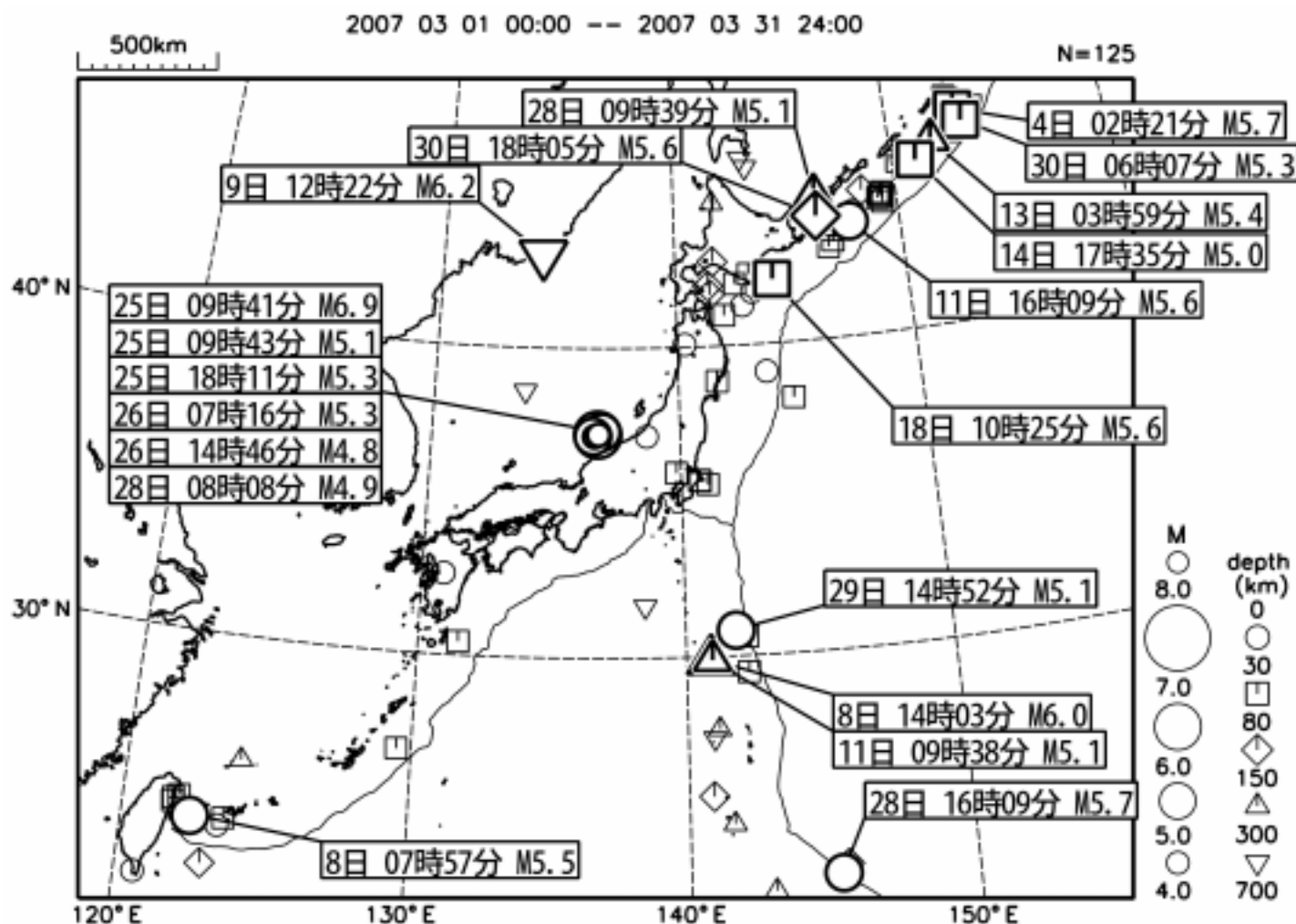
2007 年 3 月 26 日に気象庁において第 250 回地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会（定例会）を開催し、気象庁は「最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動」として次のコメントを発表しました。その後も地震・地殻活動等の状況に変化はありません。

現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。

全般的には顕著な地震活動はありません。浜名湖東方から静岡県中部の直下では通常より活動レベルの低い状態になっていますが、その他の地域では概ね平常レベルです。

東海地域及びその周辺の地殻変動には注目すべき特別な変化は観測されていません。

2007 年 3 月の全国の地震活動 (マグニチュード 4.0 以上)



鳥島近海で3月8日に M6.0 の地震があった。

日本海北部で3月9日に M6.2 の地震があった。

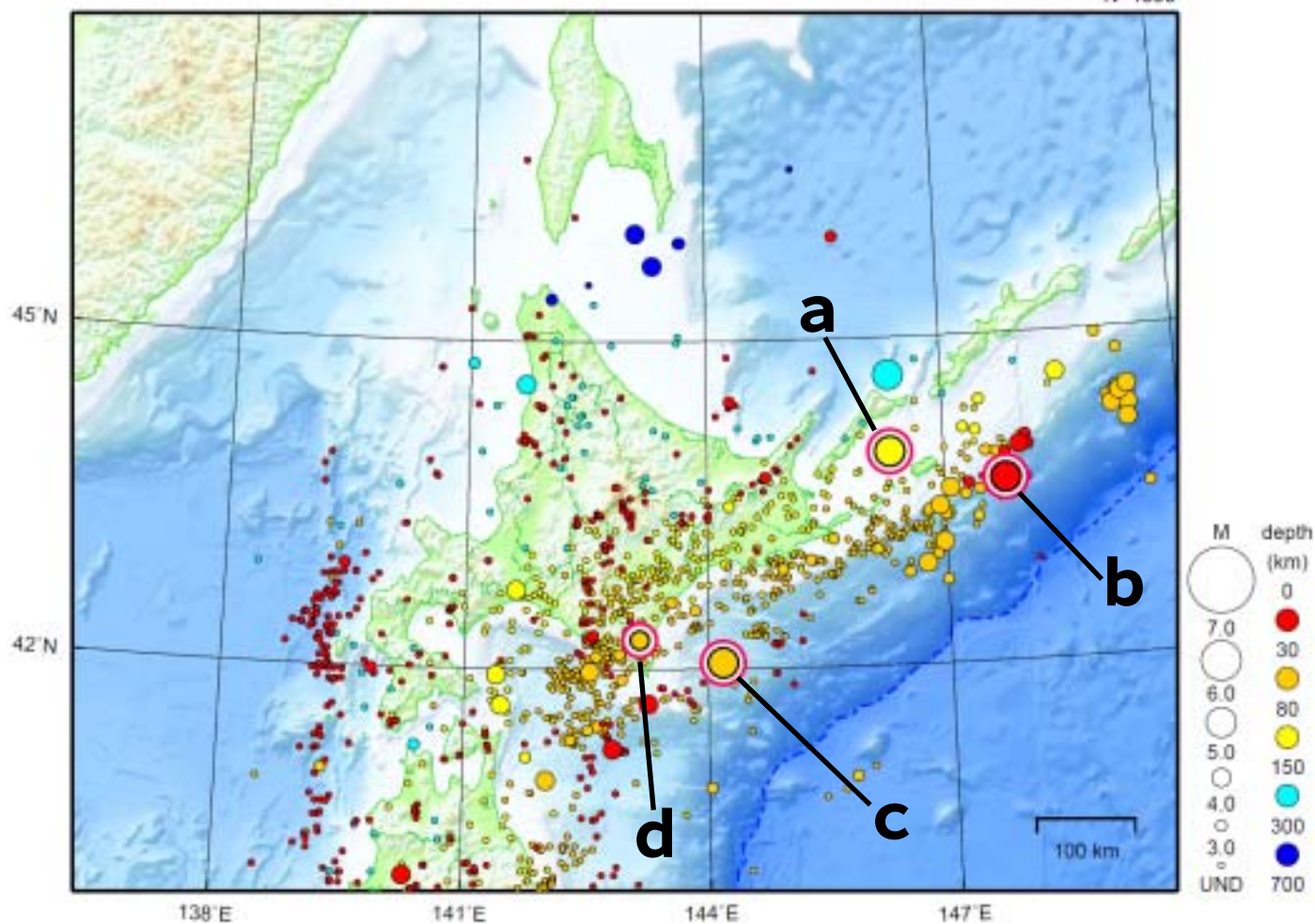
能登半島沖で3月25日に M6.9 の地震があった。また震度5弱を観測した余震が3回発生した。気象庁はこの地震を「平成19年(2007年)能登半島地震」と命名した。

[図中に日時分、マグニチュードを付した地震は M5.0 以上の地震、または M4.0 以上で最大震度5弱以上を観測した地震である。また、上に表記した地震は M6.0 以上、または M4.0 以上で最大震度5弱以上を観測した地震である。]

北海道地方

2007/03/01 00:00 ~ 2007/03/31 24:00

N=1390



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

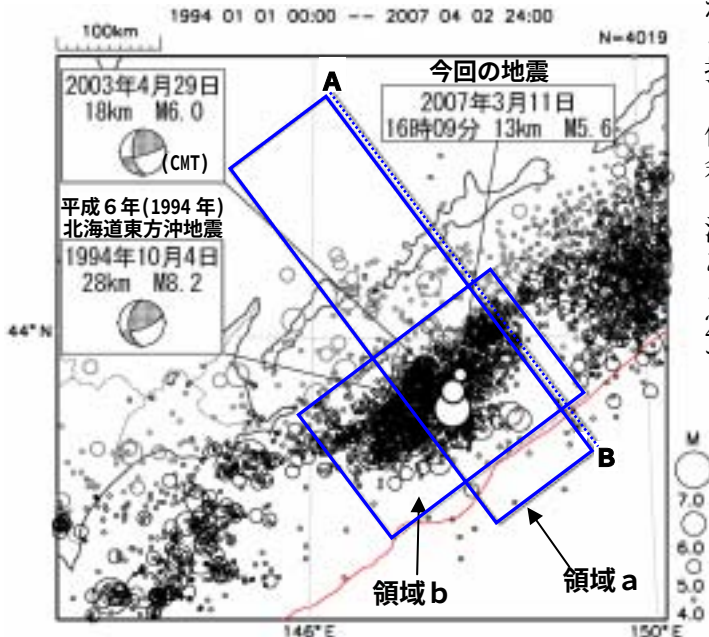
- a) 3月30日に国後島付近で M5.6 (最大震度3) の地震があった。
- b) 3月11日に北海道東方沖で M5.6 (最大震度3) の地震があった。
- c) 3月18日に十勝沖で M5.6 (最大震度3) の地震があった。
- d) 3月30日に十勝支庁南部で M4.7 (最大震度3) の地震があった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

3月11日 北海道東方沖の地震

A

震央分布図
(1994年以降、深さ250km以浅、 $M \geq 4.0$)
深さ80km以浅を濃く表示

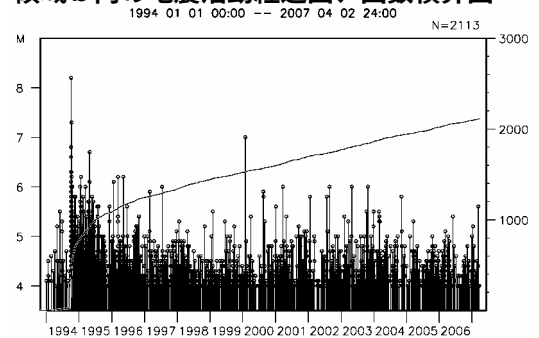


2007年3月11日16時09分に北海道東方沖の深さ13kmでM5.6(最大震度3)の地震が発生した。発震機構(ハーバード大学によるCMT解)は、北西-南東方向に圧力軸を持つ型であった。

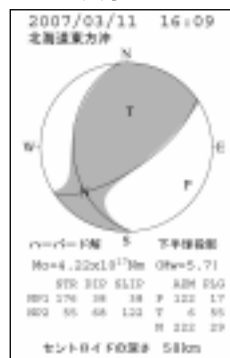
この地震は太平洋プレートの沈み込みに伴い発生したと考えられる。4月2日現在、余震活動は低調である。

この付近は「平成6年(1994年)北海道東方沖地震」(M8.2、最大震度6)の余震域内にあり、M5以上の地震が度々発生している。今回の地震の震源付近では2003年4月29日にM6.0(最大震度3)の地震が発生している(**A**)。

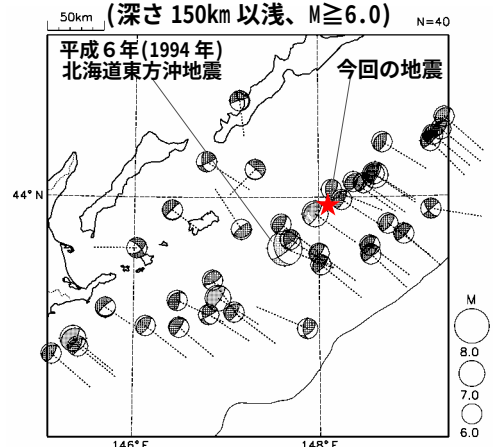
領域b内の地震活動経過図、回数積算図



今回の地震の発震機構解
(ハーバード大学によるCMT解)



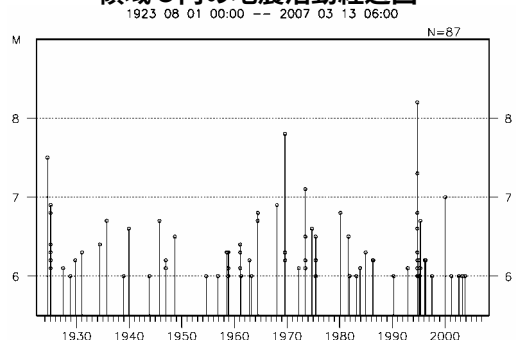
発震機構分布図
(ハーバード大学によるCMT解)
(深さ150km以浅、 $M \geq 6.0$)



点線は圧力軸の方向を表す。

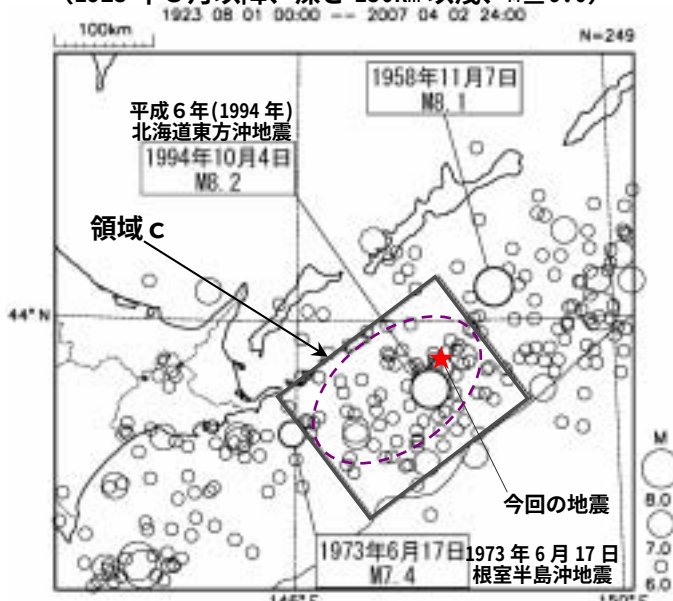
1923年8月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近では、「平成6年(1994年)北海道東方沖地震」(M8.2)など、M6以上の地震が度々発生している(**B**)。

領域c内の地震活動経過図



B

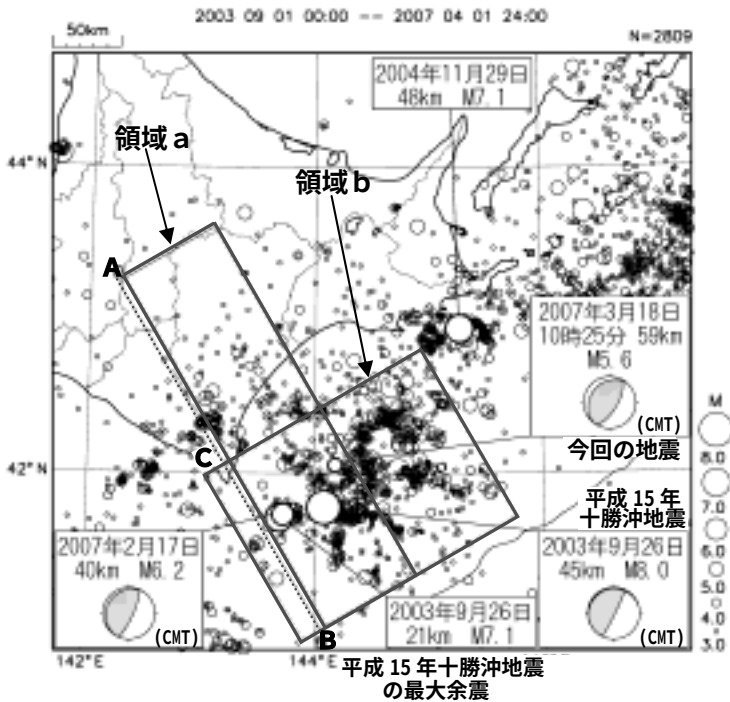
震央分布図
(1923年8月以降、深さ150km以浅、 $M \geq 6.0$)



楕円は1994年北海道東方沖地震の大まかな余震域を示す。

3月18日 十勝沖の地震

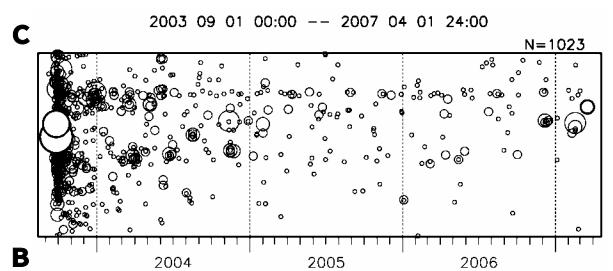
A 震央分布図
(2003年9月以降、深さ0~200 km、M $\geq$ 3.0)



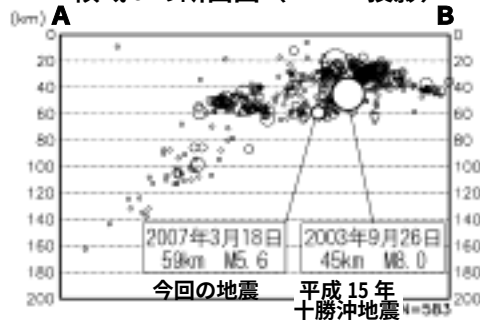
2007年3月18日10時25分に十勝沖の深さ59kmでM5.6（最大震度3）の地震が発生した。発震機構（CMT解）は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界付近で発生した地震と考えられる。4月1日現在余震は発生していない。

今回の地震は、「平成15年(2003年)十勝沖地震」(M8.0、最大震度6弱)の地震の余震域内で発生した。同余震域内では2007年2月17日にM6.2の地震（最大震度4）が発生している。（**A**）。

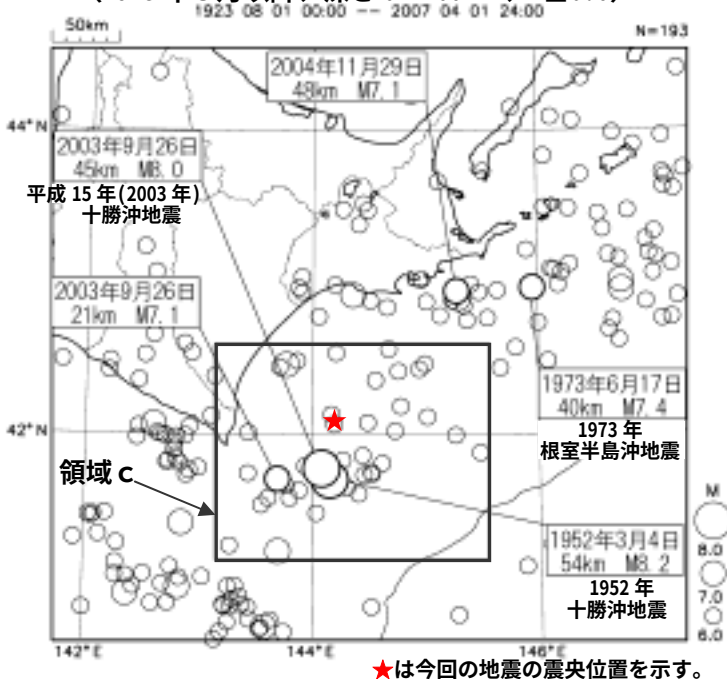
領域bの時空間分布図（C-B投影）



領域aの断面図（A-B投影）

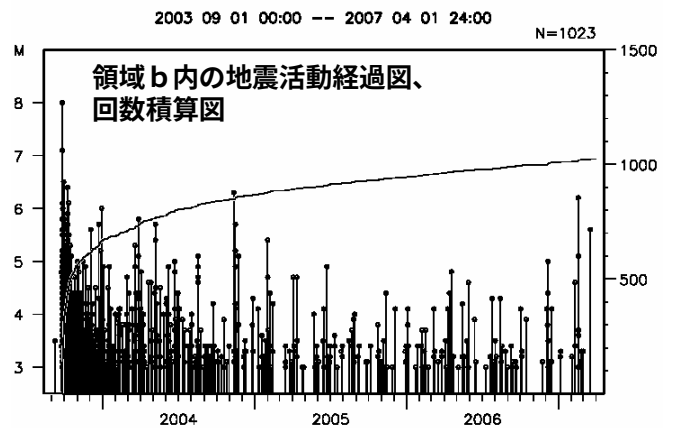


B 震央分布図
(1923年8月以降、深さ0~200 km、M $\geq$ 6.0)



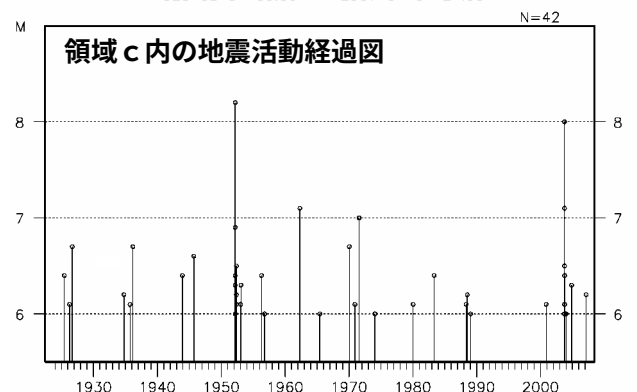
★は今回の地震の震央位置を示す。

領域b内の地震活動経過図、回数積算図



1923年8月以降の活動をみると、この付近では、「平成15年(2003年)十勝沖地震」(M8.0、最大震度6弱)、1952年十勝沖地震(M8.2、最大震度5)が発生している（**B**）。

領域c内の地震活動経過図

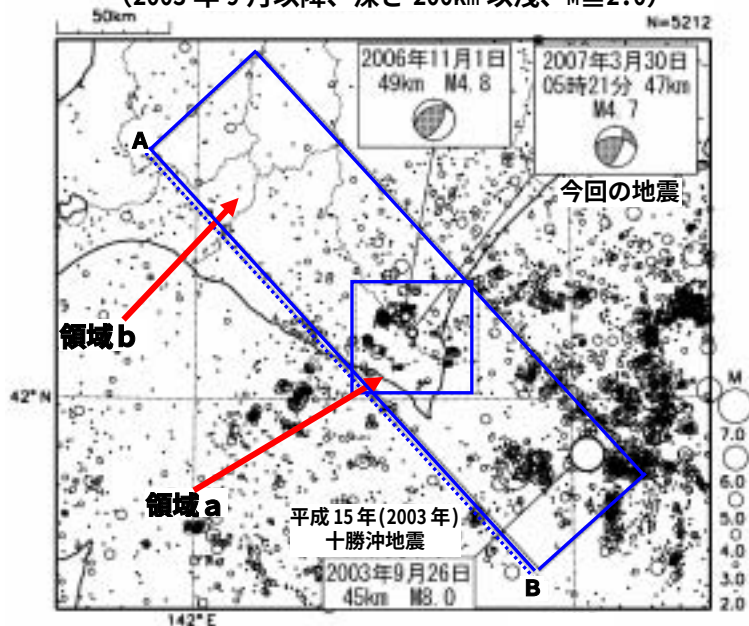


3月30日 十勝支庁南部の地震

A

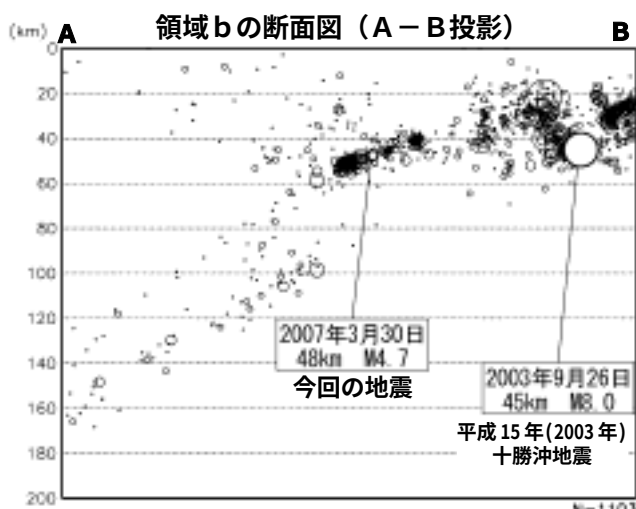
震央分布図

(2003年9月以降、深さ200km以浅、 $M \geq 2.0$)

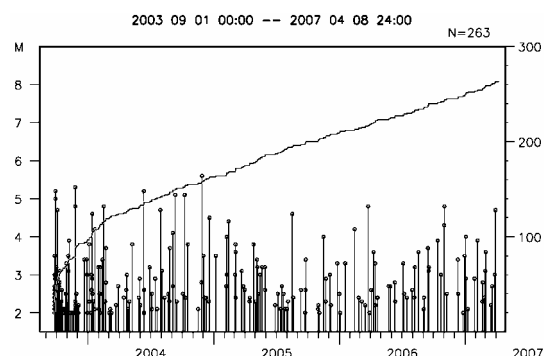


2007年3月30日05時21分に十勝支庁南部の深さ47kmで $M4.7$ (最大震度3)の地震が発生した。今回の地震の発震機構は北西-南東方向に圧力軸をもつ型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界付近で発生した地震である。余震活動は低調であった。

今回の地震の震源付近(領域a)はクラスタ状の活動が見られるところで、最近では2006年11月1日に $M4.8$ (最大震度4)の地震が発生している (A)。



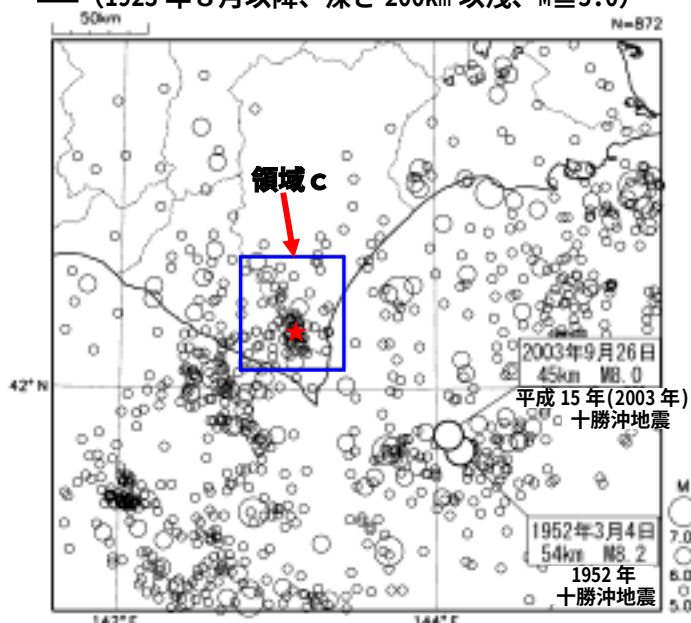
領域a内の地震活動経過図、回数積算図 (深さ20~80km)



B

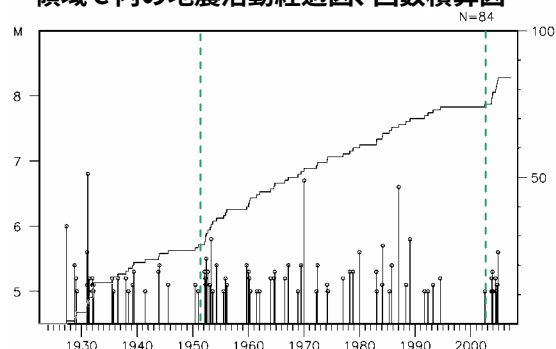
震央分布図

(1923年8月以降、深さ200km以浅、 $M \geq 5.0$)



1923年8月以降の $M5.0$ 以上の活動をみると、今回の地震の震央付近(領域c)では、 $M6.0$ 以上の地震が4回発生している。また、2003年十勝沖地震前に地震発生数が少なく、発生後は増加しているように見える。1952年十勝沖地震前にも似たような傾向が見える (B)。

領域c内の地震活動経過図、回数積算図



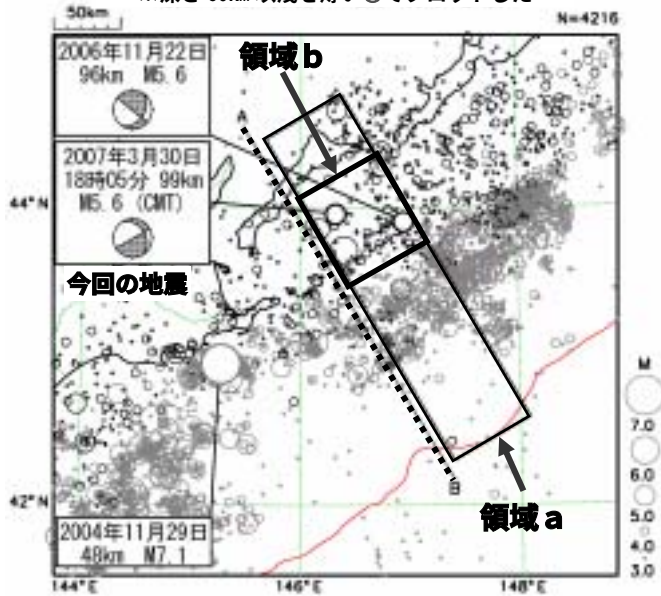
点線は1952年十勝沖地震と、平成15年(2003年)十勝沖地震の発生した時期を示す。

★は今回の地震の震央位置を示す。

3月30日 国後島付近の地震

A

震央分布図
(2001年以降、 $M \geq 3.0$ 、深さ 200km 以浅)
※深さ 60km 以浅を薄い○でプロットした

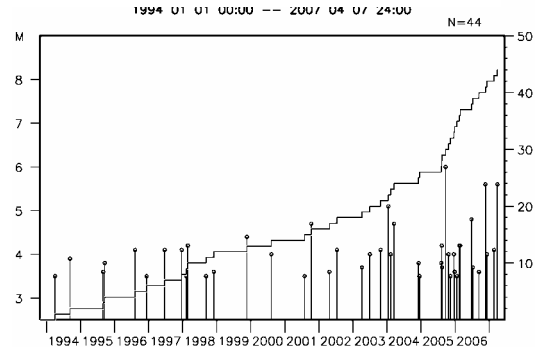


2007年3月30日 18時05分に国後島付近の深さ 99km で $M5.6$ (最大震度 3) の地震が発生した。余震は直後に $M3$ に満たない地震が数回観測されたのみであった。

この地震の発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ型で、太平洋プレート内部で発生した地震である。2001年以降の活動を見ると、2005年後半から増加しているように見える。

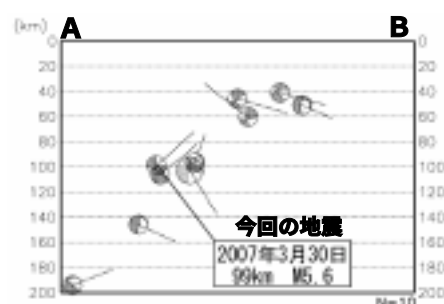
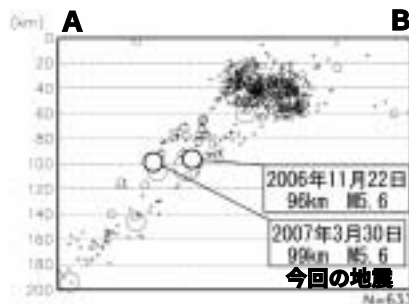
今回の地震の震源付近では、2006年11月22日に $M5.6$ (最大震度 4) の地震が発生している (**A**)。

領域b内の地震活動経過図、回数積算図
(1994年以降、 $M \geq 3.5$ 、深さ 70~130km)



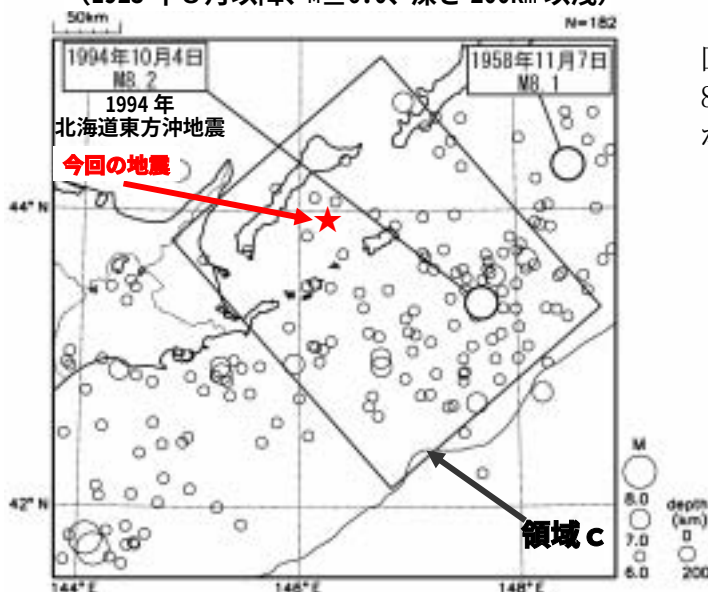
領域aの断面図 (A-B 投影) 及びメカニズム解 (CMT 解)

※メカニズム解には圧力軸をあわせて表示した



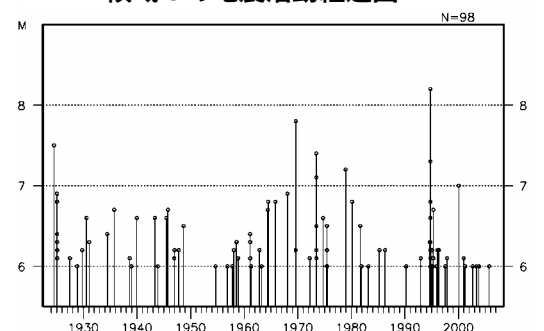
B

震央分布図
(1923年8月以降、 $M \geq 6.0$ 、深さ 200km 以浅)



1923年8月以降の地震活動をみると、今回の地震の周辺では 1994年10月4日の $M8.2$ (1994年北海道東方沖地震、最大震度 6) が発生している。

領域cの地震活動経過図

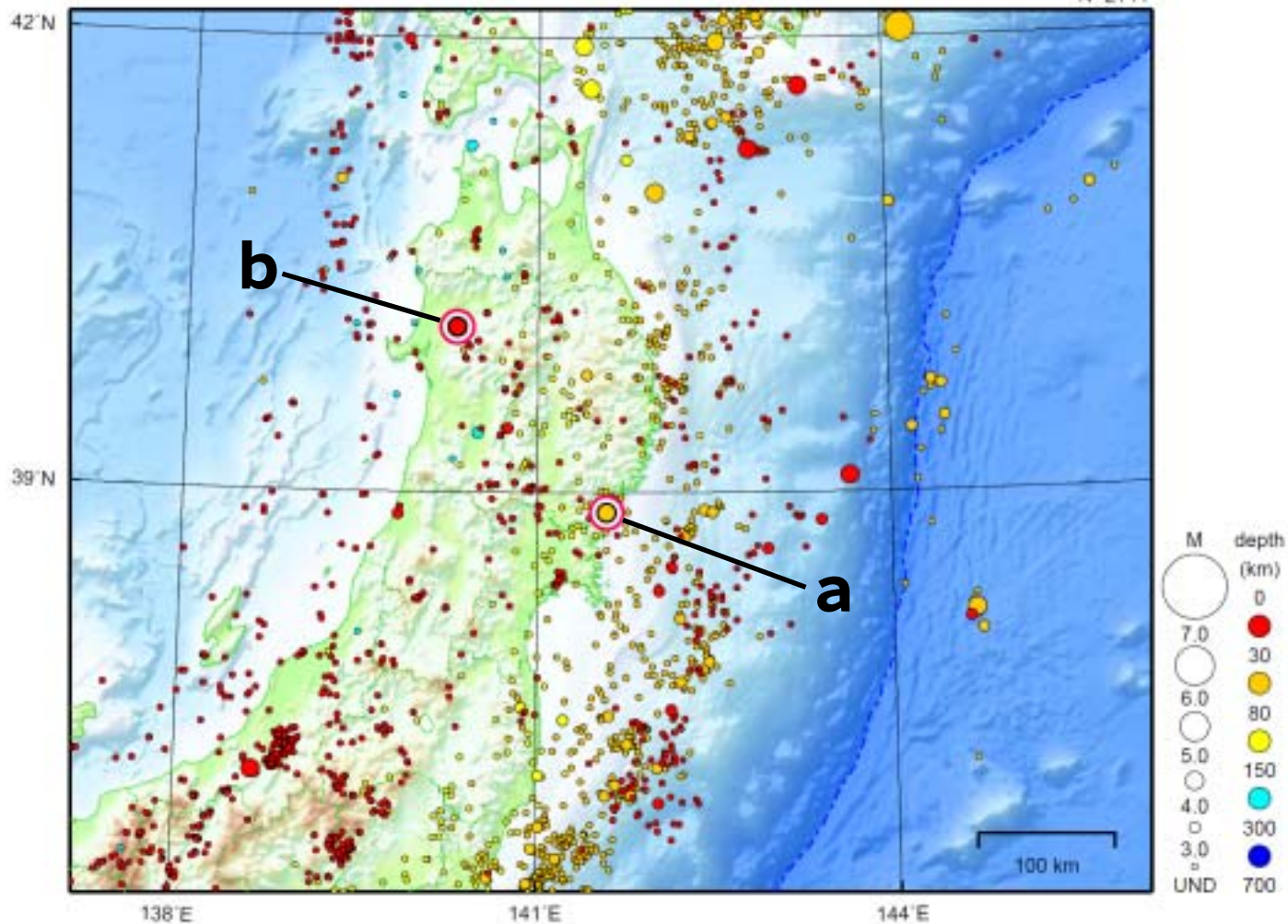


B

東北地方

2007/03/01 00:00 ~ 2007/03/31 24:00

N=2111



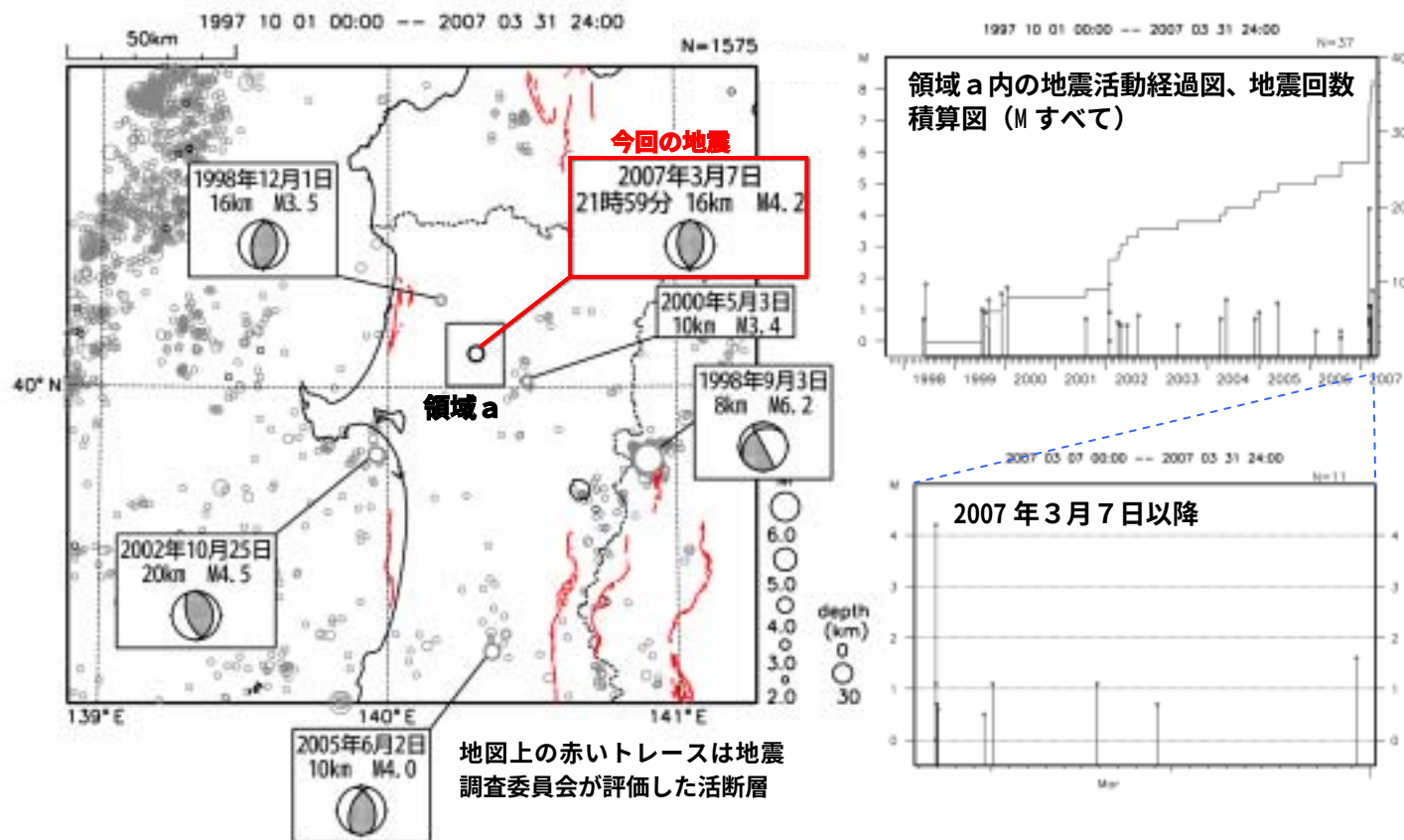
地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- a) 3月31日に宮城県北部で M4.8 (最大震度3) の地震があった。
- b) 3月7日に秋田県内陸北部で M4.2 (最大震度4) の地震があった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

3月7日 秋田県内陸北部の地震

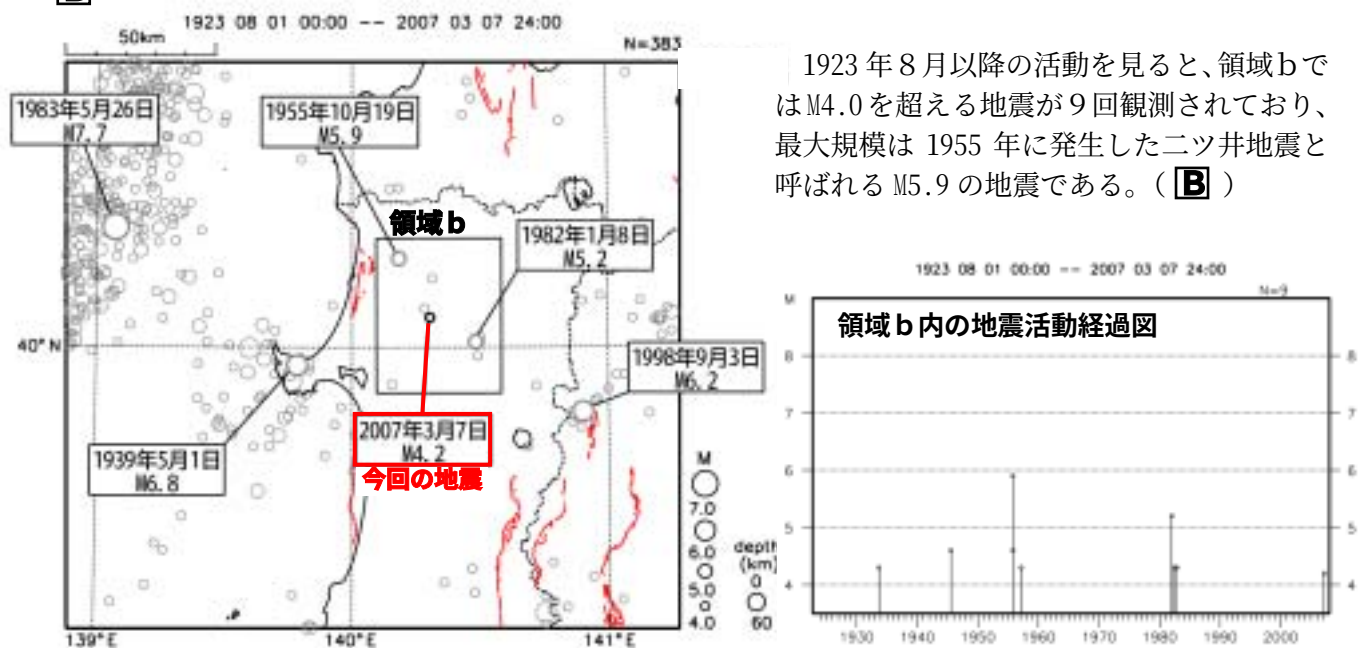
A 震央分布図（1997年10月以降、 $M \geq 2.0$ ）．2007年2月以降を濃く表示



2007年3月7日21時59分に秋田県内陸北部の深さ16kmで $M4.2$ （最大震度4）の地震が発生した。発震機構は、東西方向に圧力軸を持つ逆断層型でこの付近ではよく見られるタイプである。余震活動は低調であった。

1997年10月以降の活動を見ると、この付近（領域a）では今回の地震以外に $M2.0$ 以上の地震は観測されていない。（**A**）

B 震央分布図（1923年8月以降、 $M \geq 4.0$ ）

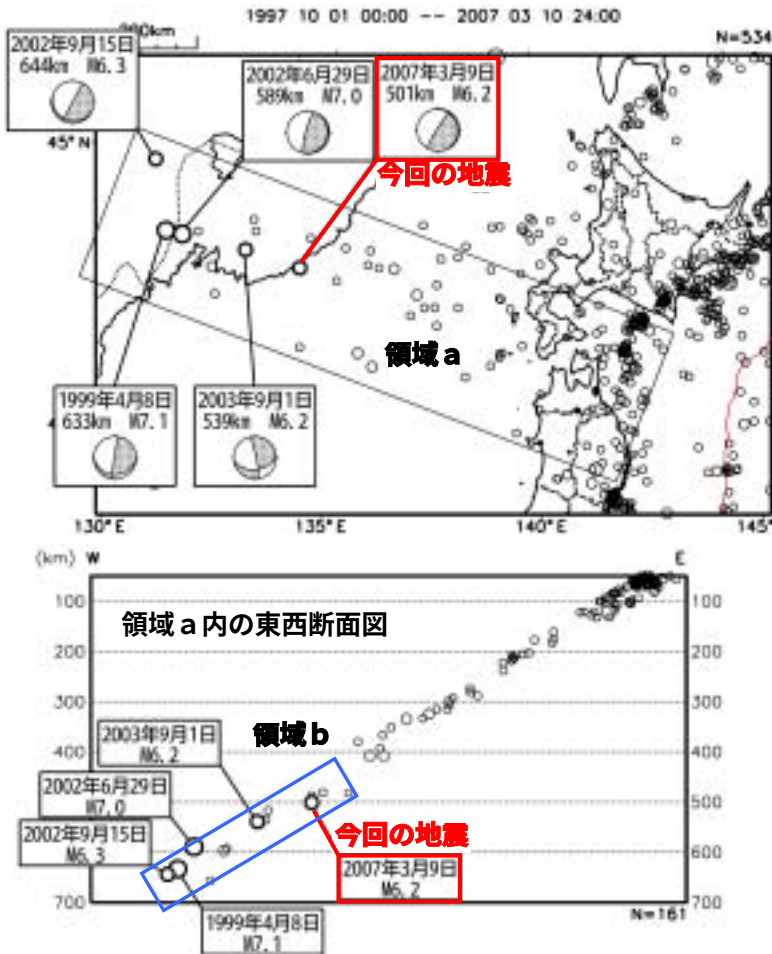


1923年8月以降の活動を見ると、領域bでは $M4.0$ を超える地震が9回観測されており、最大規模は1955年に発生した二ツ井地震と呼ばれる $M5.9$ の地震である。（**B**）

3月9日 日本海北部の地震

【A】震央分布図（1997年10月以降、 $M \geq 4.0$ 、50km以深）

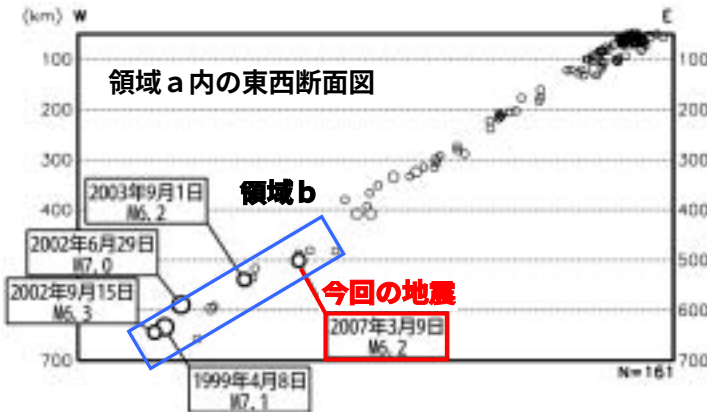
〔吹き出し中の発震機構解はすべて CMT 解〕



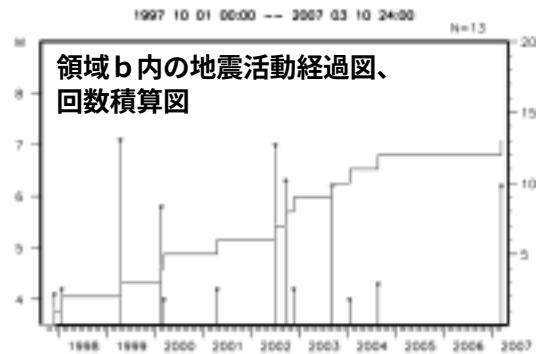
震度分布



領域a内の東西断面図

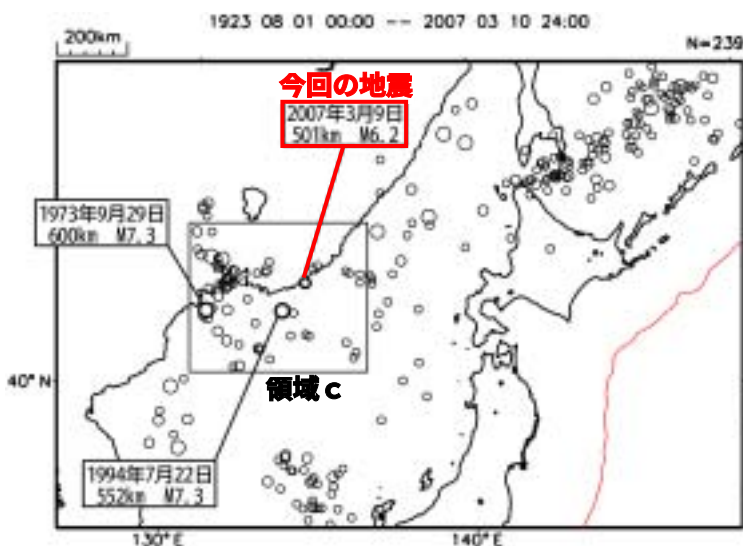


領域b内の地震活動経過図、回数積算図



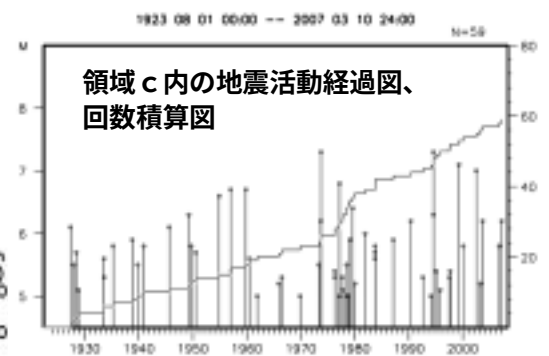
2007年3月9日12時22分に日本海北部の深さ501kmでM6.2（最大震度2）の地震が発生した。発震機構はこの付近でよく見られる太平洋プレートの沈み込む方向に圧力軸を持つ型で、太平洋プレートの内部で発生した地震と考えられる。太平洋プレートの深部で発生した地震では、しばしば日本列島の太平洋側で震度が観測されることがあり、この地震でも同様な傾向が見られた。（【A】）

【B】震央分布図（1923年8月以降、 $M \geq 5.0$ 、300km以深）



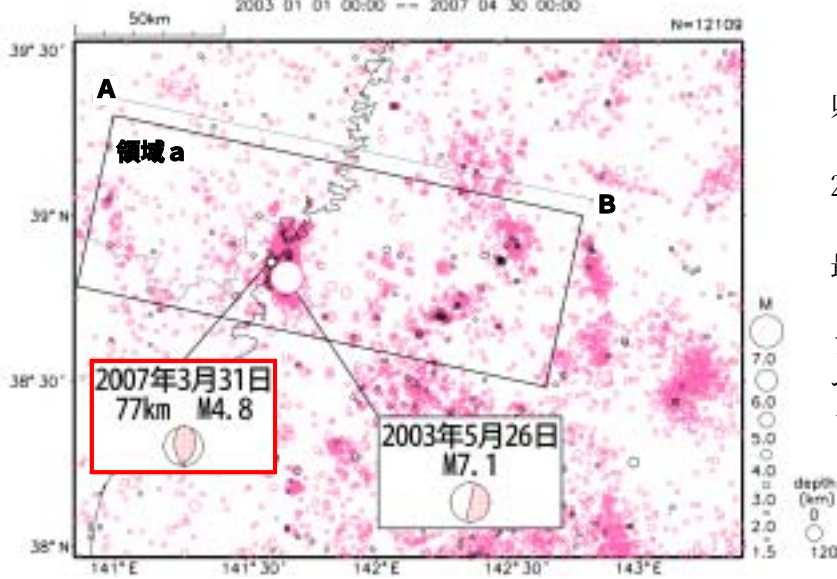
1923年8月以降、領域cでは、M5.0を超える地震がたびたび発生しており、最大規模は1973年、1994年に発生したM7.3の地震である。（【B】）

領域c内の地震活動経過図、回数積算図



3月31日 宮城県北部の地震

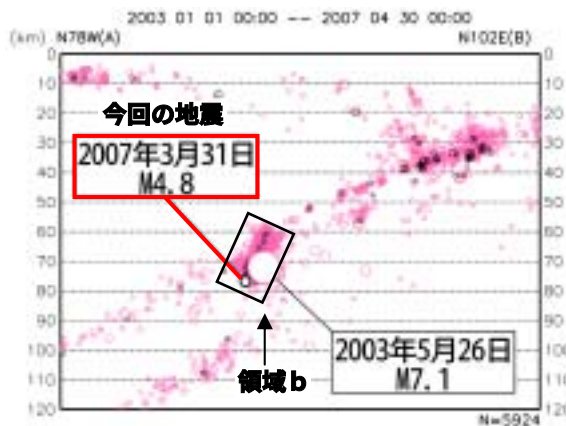
A 震央分布図（2003年1月以降、 $M \geq 1.5$ 、深さ0～120km）。2007年1月以降は濃く表示



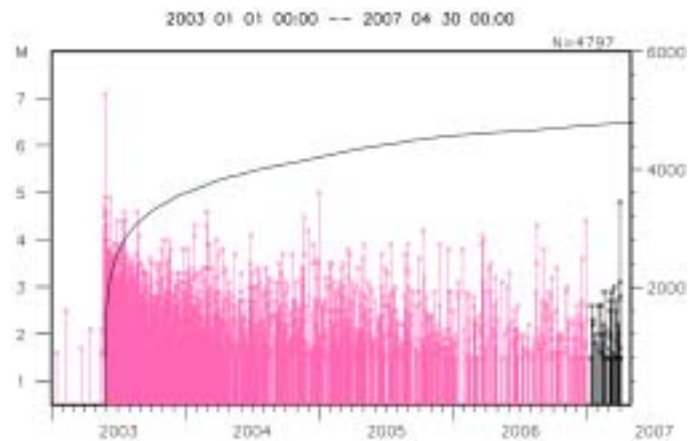
2007年3月31日22時32分に宮城県北部の深さ77kmでM4.8（最大震度3）の地震が発生した。この地震は、2003年5月26日の宮城県沖の地震（M7.1、最大震度6弱）の余震域の最下端で発生した。

この地震の発震機構は、太平洋プレートが沈み込む方向に圧力軸を持つ型で、太平洋プレート内部で発生した地震である。（A）

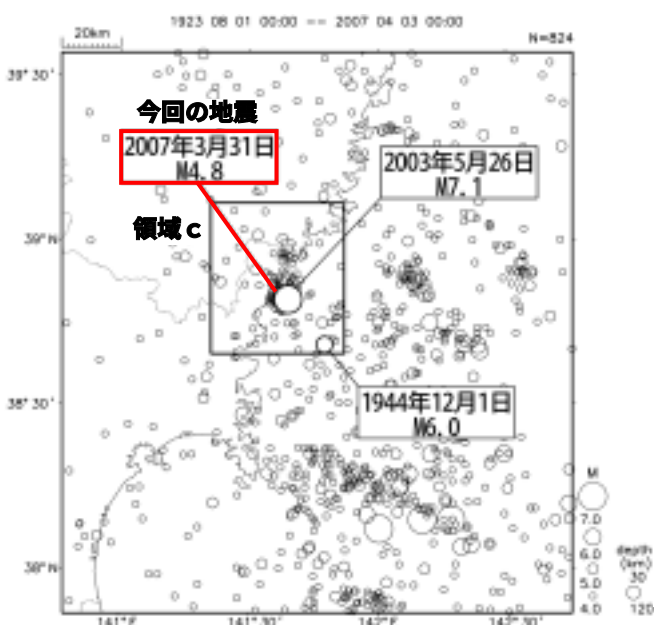
領域a内の断面図（A－B投影）



領域b内の地震活動経過図、回数積算図

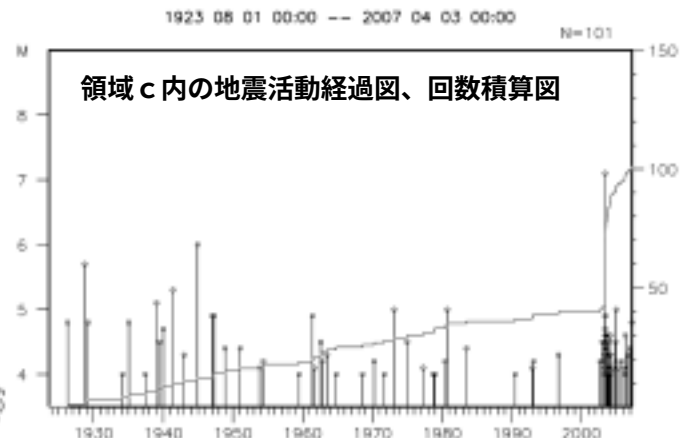


B 震央分布図（1923年8月以降、 $M \geq 4.0$ 、30～120km）



1923年8月以降の活動を見ると、領域cでは2003年5月26日の地震以降、余震活動の活発な状態が続いている。（B）

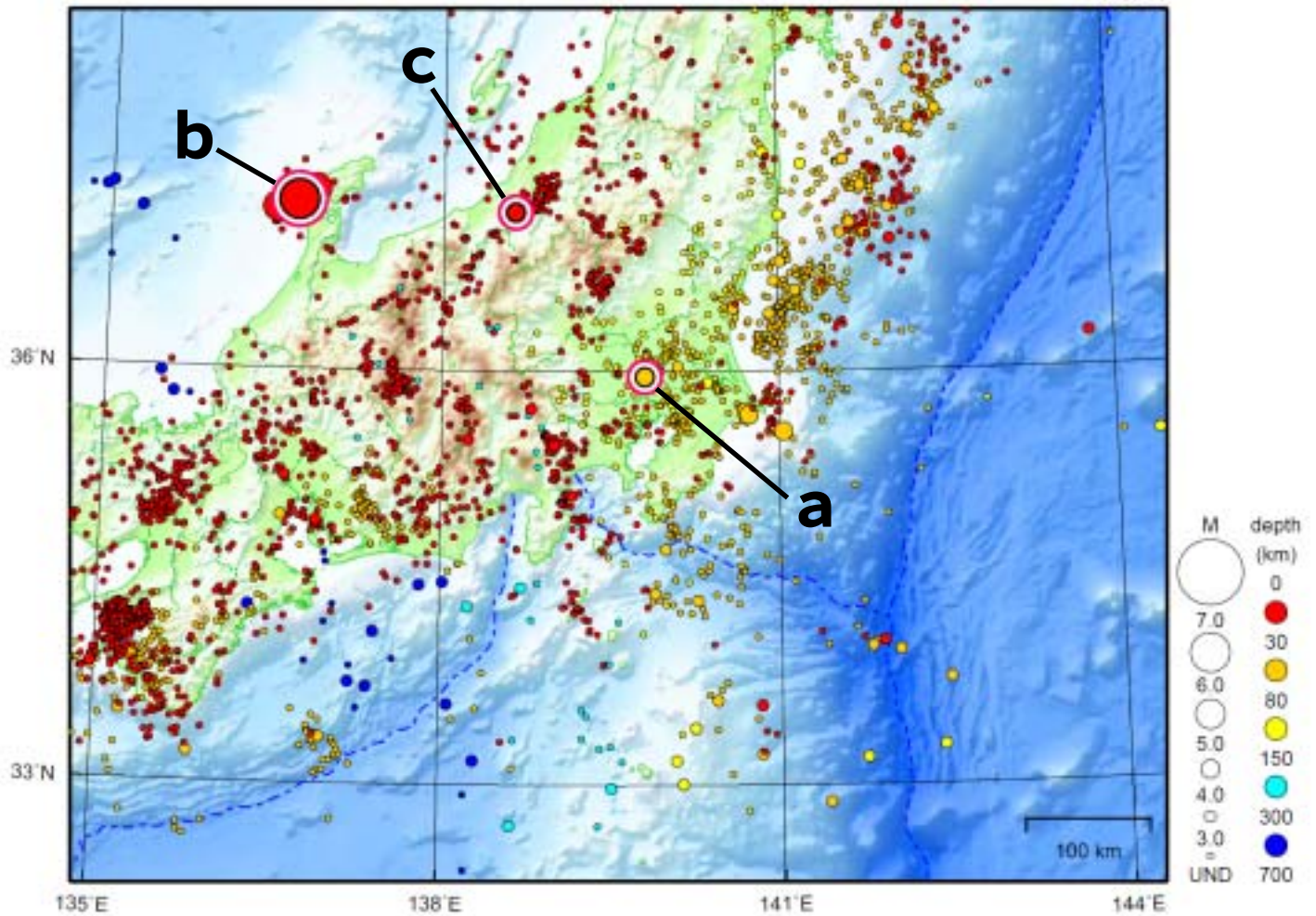
領域c内の地震活動経過図、回数積算図



関東・中部地方

2007/03/01 00:00 ~ 2007/03/31 24:00

N=5214



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

a) 3月22日に埼玉・千葉県境付近〔埼玉県南部〕で M4.2（最大震度3）の地震があった。

b) 3月25日に能登半島沖で M6.9（最大震度6強）の地震*があった。

＊：気象庁はこの地震を「平成19年（2007年）能登半島地震」と命名した。

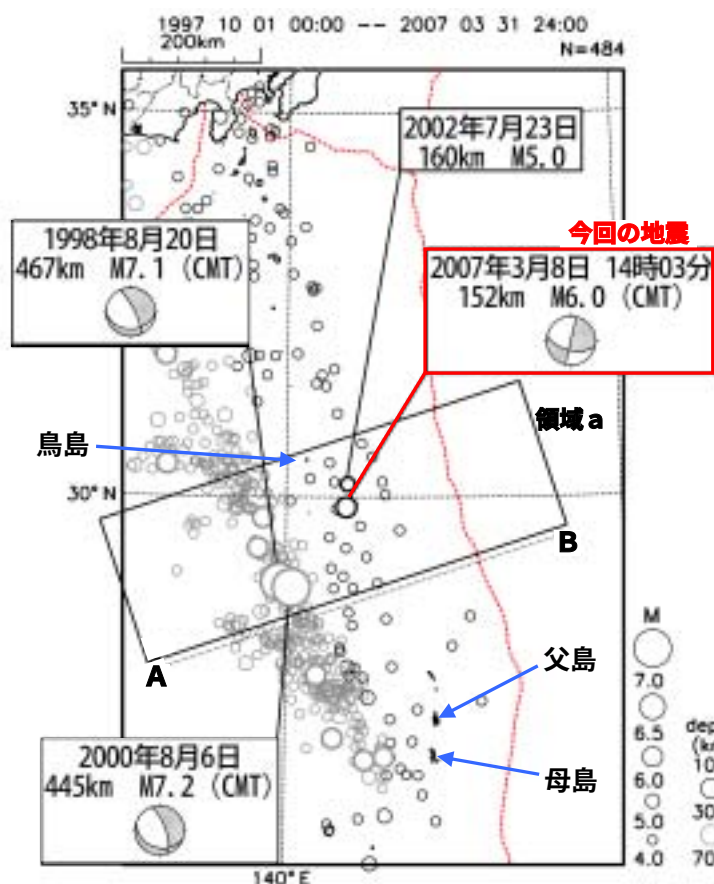
c) 3月10日に新潟県中越地方で M4.0（最大震度3）の地震があった。

3月8日に鳥島近海で M6.0（最大震度2）の地震があった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

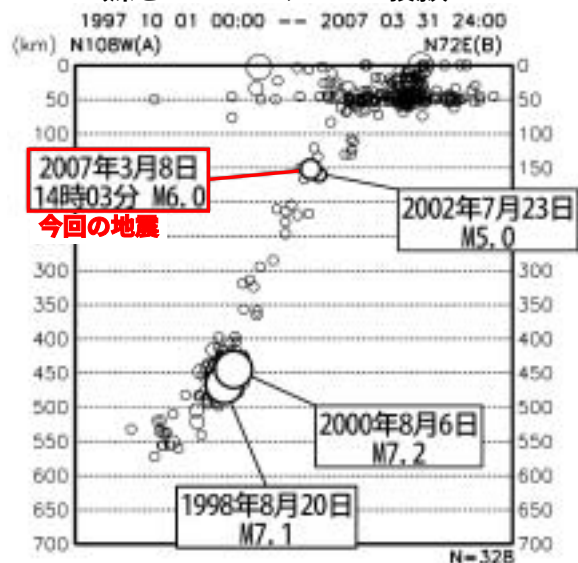
3月8日 鳥島近海の地震

A 震央分布図
(1997年10月以降、深さ100~700km、 $M \geq 4.0$)

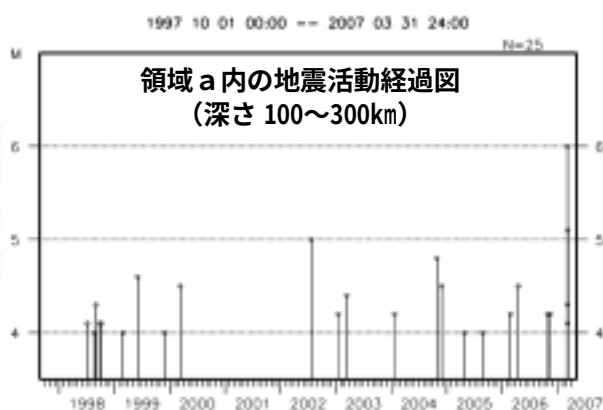


2007年3月8日14時03分に鳥島近海の深さ152kmで $M6.0$ (最大震度2)の地震が発生した。発震機構は東北東-西南西方向に張力軸を持つ型で、太平洋プレート内部で発生した地震である。(A)

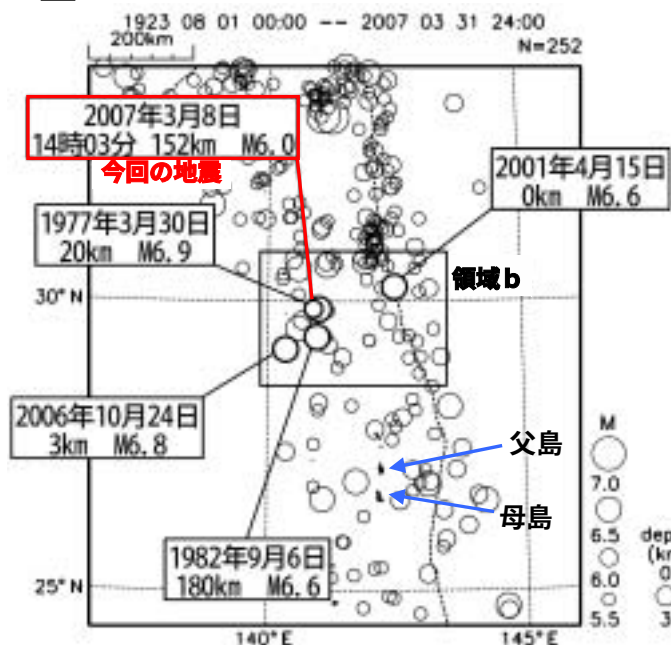
領域a内の断面図
(深さ0~700km、A-B投影)



領域a内の地震活動経過図
(深さ100~300km)

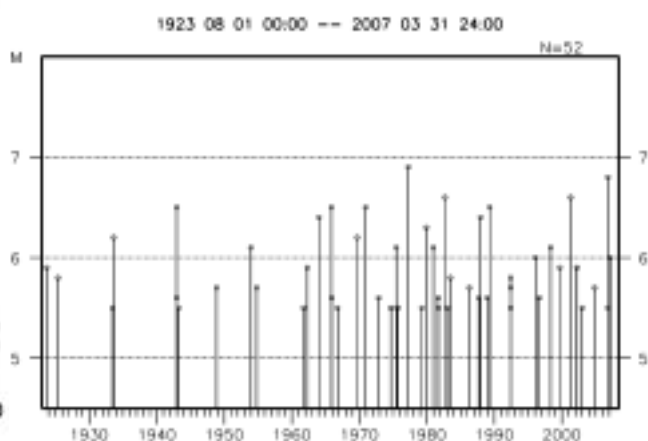


B 震央分布図 (1923年8月以降、 $M \geq 5.5$)



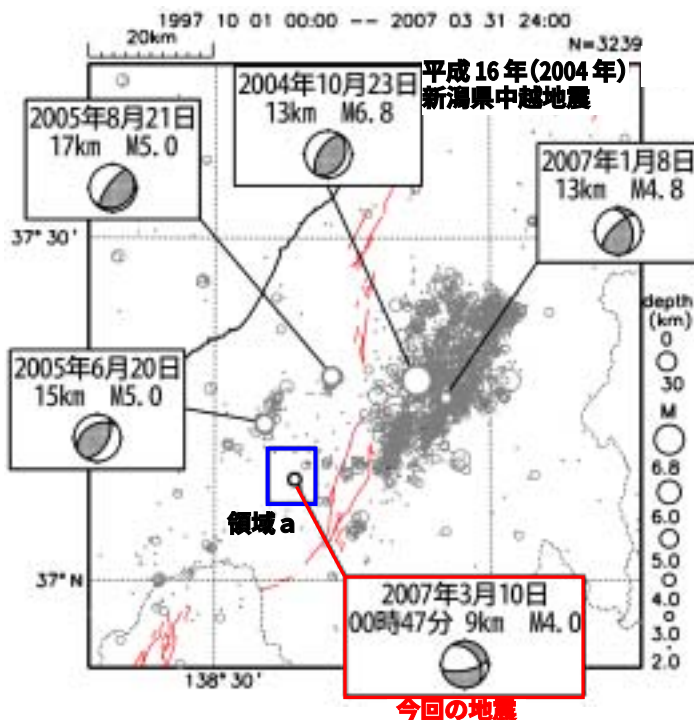
1923年8月以降、今回の地震の震央付近では $M6.0$ 以上の地震が時々発生しており、最近では2006年10月24日に $M6.8$ の地震が発生している。(B)

領域b内の地震活動経過図

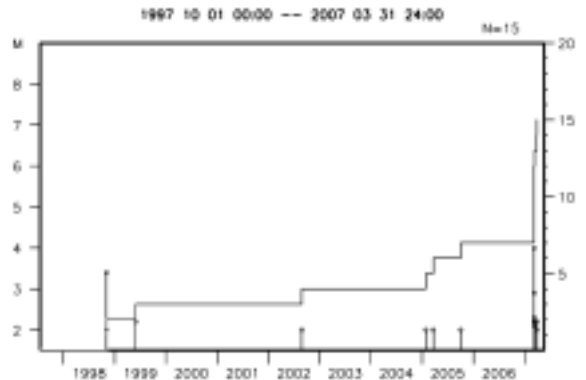


3月10日 新潟県中越地方の地震

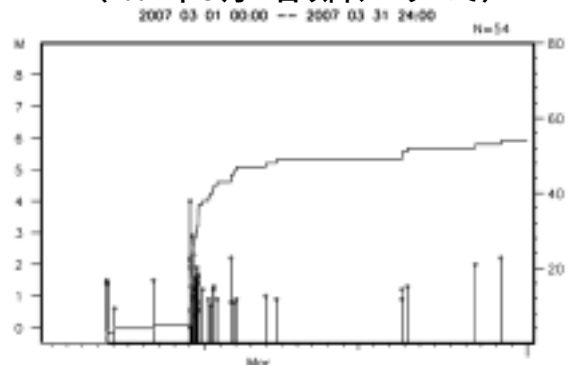
A 震央分布図（1997年10月以降、 $M \geq 2.0$ ）
[2007年3月以降の活動を濃く表示]



領域a内の地震活動経過図、回数積算図

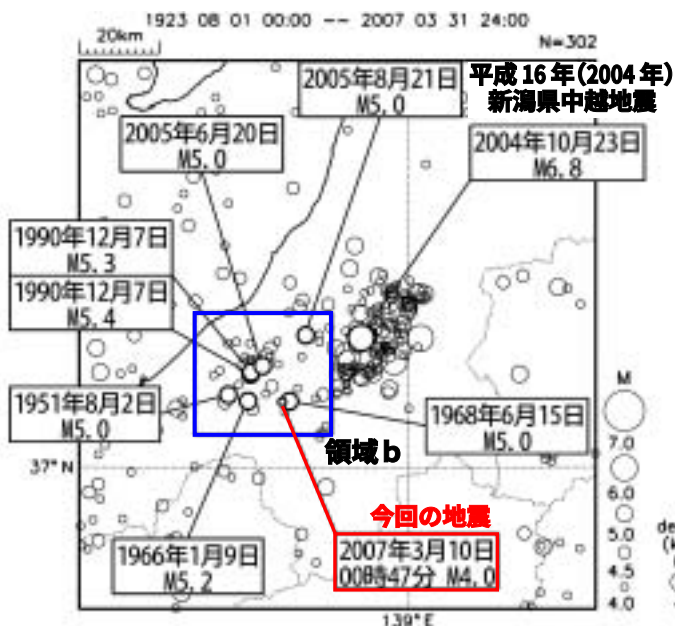


領域a内の地震活動経過図、回数積算図
（2007年3月1日以降、Mすべて）



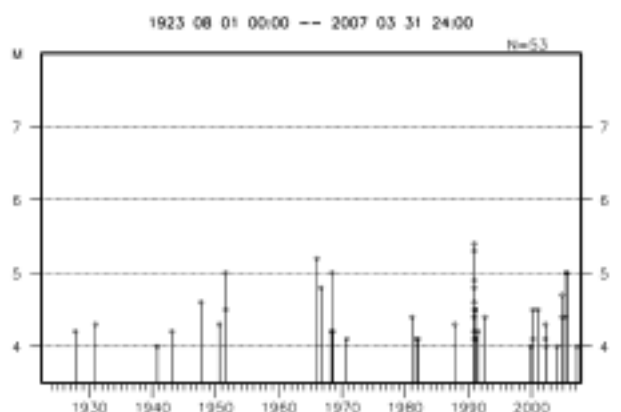
2007年3月10日00時47分に新潟県中越地方の深さ9kmでM4.0（最大震度3）の地震が発生した。発震機構は北北東－南南西方向に張力軸を持つ正断層型であった。余震活動は3日程度では収まっている。今回の地震は「平成16年（2004年）新潟県中越地震」の余震域から南西に約20km離れた場所で発生した。（**A**）

B 震央分布図（1923年8月以降、 $M \geq 4.0$ ）



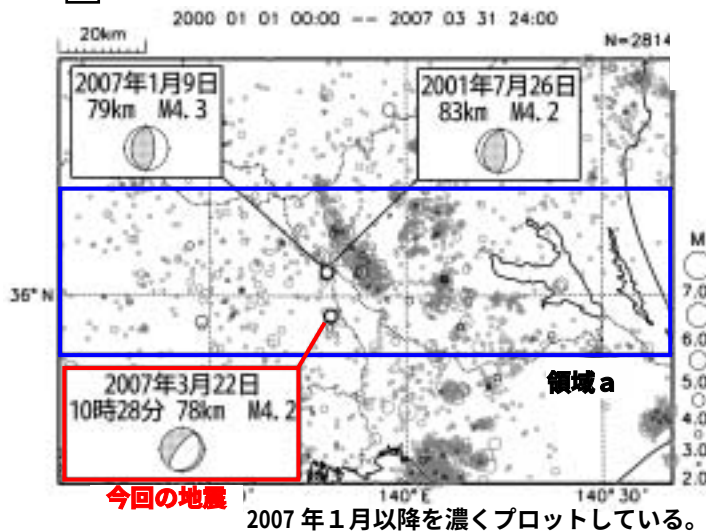
1923年8月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近では1990年12月7日にM5.4とM5.3の地震が連続して発生するなど、M5.0以上の地震が時々発生している。最近では2005年6月20日にM5.0の地震が発生している。（**B**）

領域b内の地震活動経過図



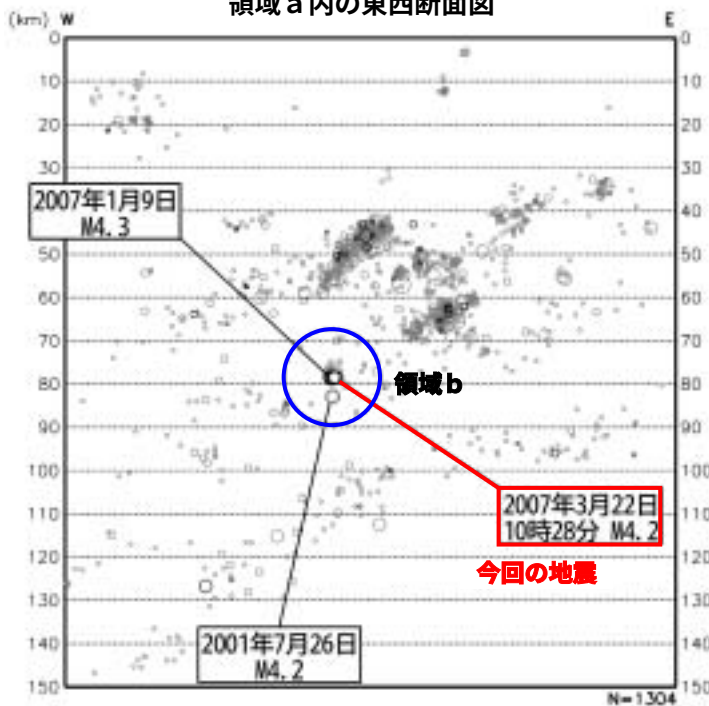
3月22日 埼玉・千葉県境付近（埼玉県南部）の地震

A 震央分布図（2000年1月以降、150km以浅、 $M \geq 2.0$ ）



2007年3月22日10時28分に埼玉・茨城県境付近〔埼玉県南部〕でM4.2（最大震度3）の地震が発生した。発震機構は北西－南東方向に張力軸を持つ型であった。今回の地震の震央付近は地震活動の活発なクラスタが見られる場所であるが、今回の地震はこのクラスタより30km程度深い場所で発生しており、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界付近で発生した地震である。今回の地震の震源付近では2007年1月9日にもM4.3（最大震度3）の地震が発生している（**A**）

領域a内の東西断面図



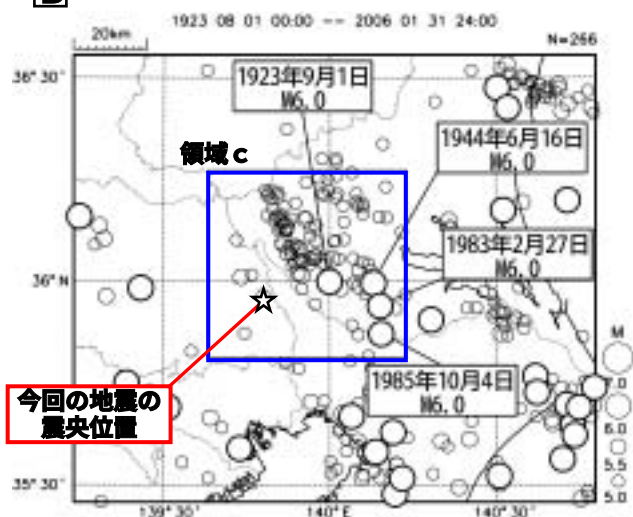
領域b内の地震活動経過図、回数積算図（ $M \geq 2.0$ ）



2007年1月1日以降（Mすべて）

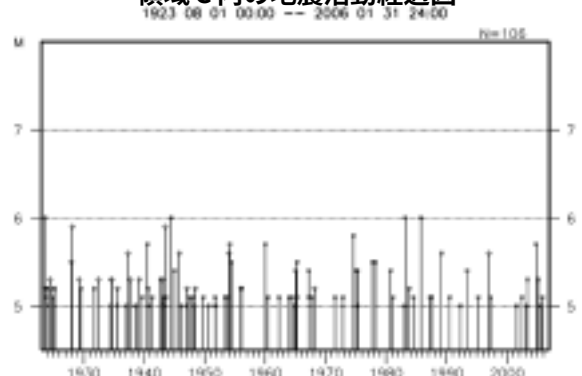


B 震央分布図（1923年8月以降、 $M \geq 5.0$ ）



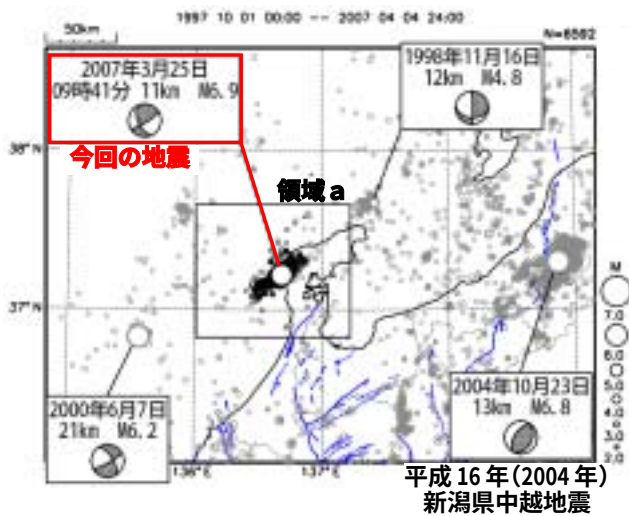
1923年8月以降、今回の地震の震央付近では、M6.0を超える地震が時々発生している。（**B**）

領域c内の地震活動経過図

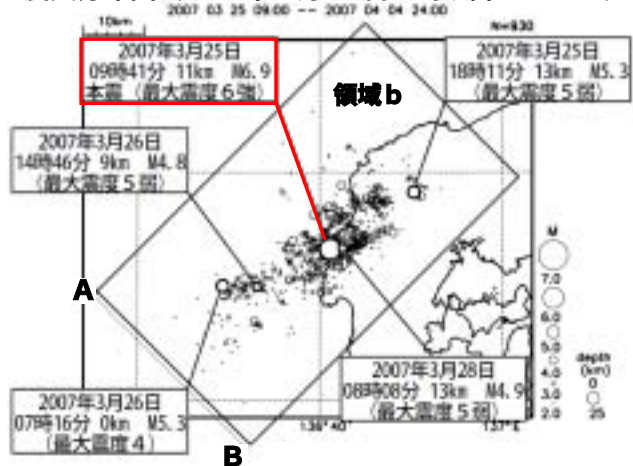


平成 19 年（2007 年）能登半島地震

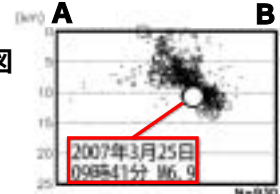
A 震央分布図（1997 年 10 月以降、 $M \geq 2.0$ ）
[2007 年 3 月以降の活動を濃く表示]



震央分布図（2007 年 3 月 25 日 9 時以降、 $M \geq 2.0$ ）



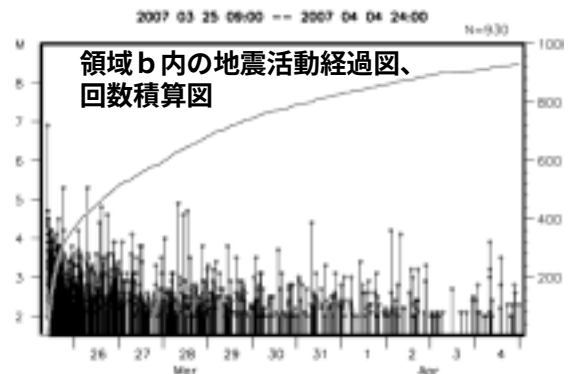
領域 b 内の断面図
(A - B 投影)



領域 a 内の地震活動経過図

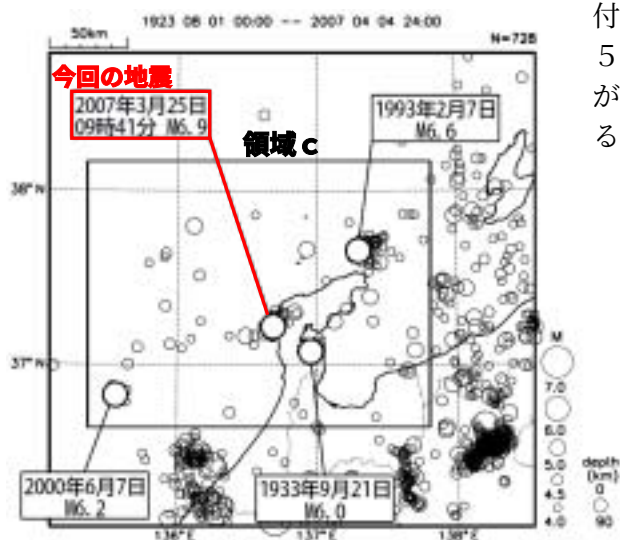


領域 b 内の地震活動経過図、
回数積算図



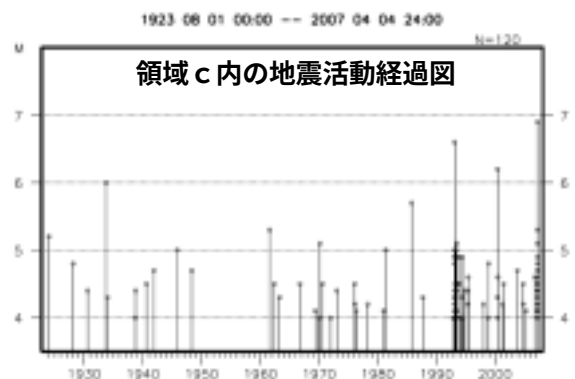
2007 年 3 月 25 日 09 時 41 分に能登半島沖の深さ 11km で M6.9（最大震度 6 強）の地震が発生した。発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ型であった。地震活動は本震－余震型で推移しており、これまでの最大の余震は、25 日 18 時 11 分（最大震度 5 弱）および、26 日 7 時 16 分（最大震度 4）に発生した M5.3 の地震である。（**A**）

B 震央分布図（1923 年 8 月以降、 $M \geq 4.0$ ）



1923 年 8 月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近では、最近では 1993 年 2 月 7 日に M6.6（最大震度 5）、2000 年 6 月 7 日に M6.2（最大震度 5 弱）の地震が発生するなど、M6.0 以上の地震が 4 回観測されているが、今回の地震が最大規模である。（**B**）

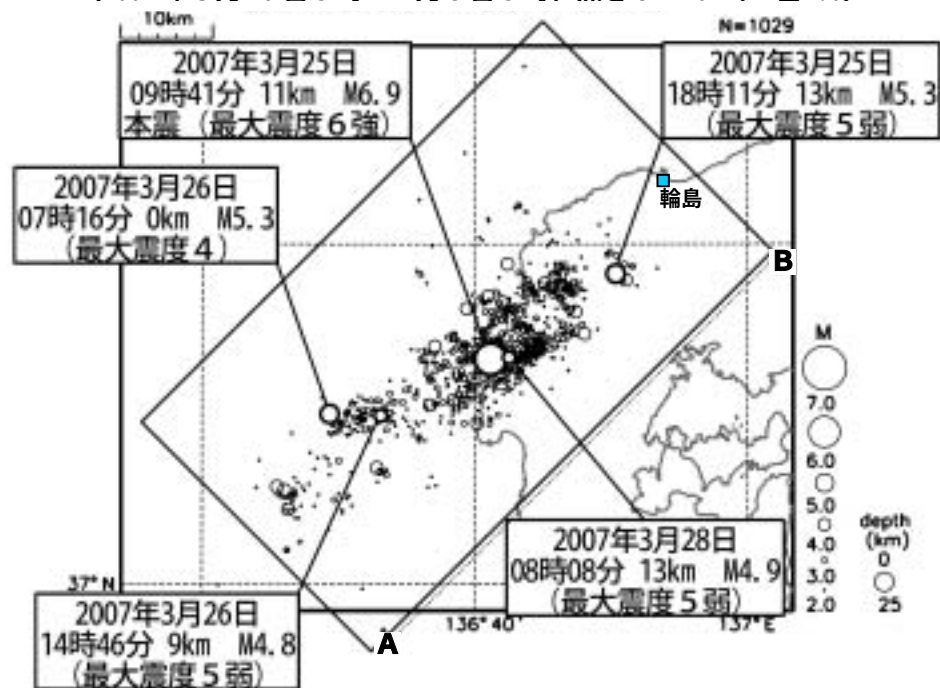
領域 c 内の地震活動経過図



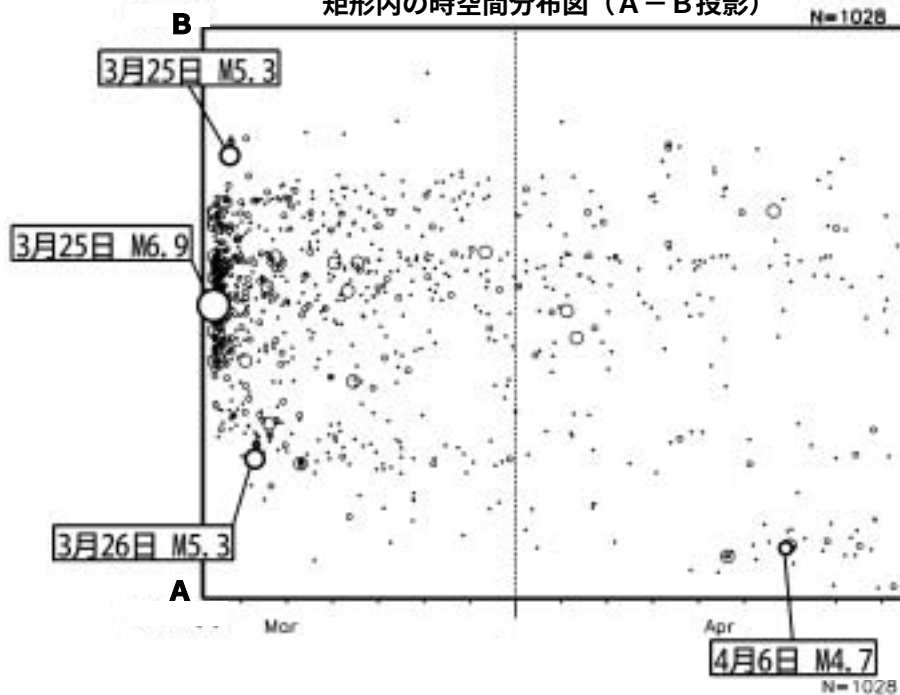
平成 19 年（2007 年）能登半島地震 （余震活動の状況）

震央分布図

（2007 年 3 月 25 日 9 時～4 月 9 日 9 時、深さ 0～25km、 $M \geq 2.0$ ）

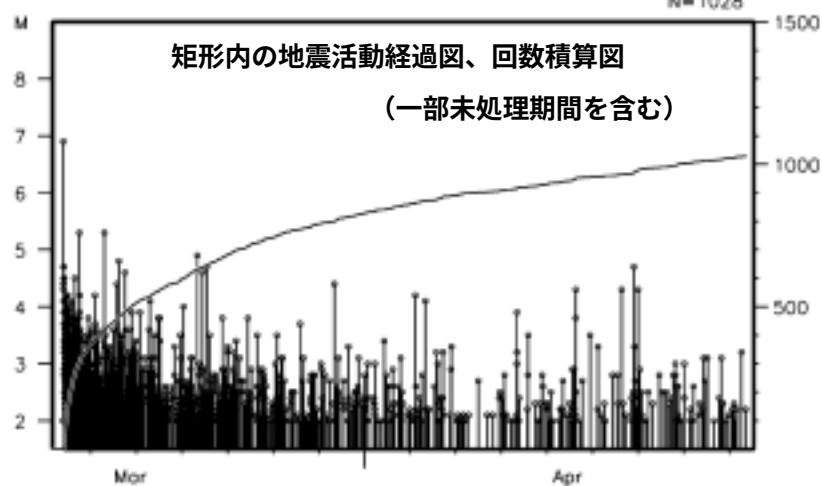


矩形内の時空間分布図 (A - B 投影)



矩形内の地震活動経過図、回数積算図

(一部未処理期間を含む)



津波の状況

今回の本震(M6.9)により、石川県の沿岸で微弱な津波を観測した。検潮儀により観測された津波の波形を図1に示し、観測値を表1に示す。最も高い津波が観測されたのは、^{すずしながはし}珠洲市長橋の22cmであった。

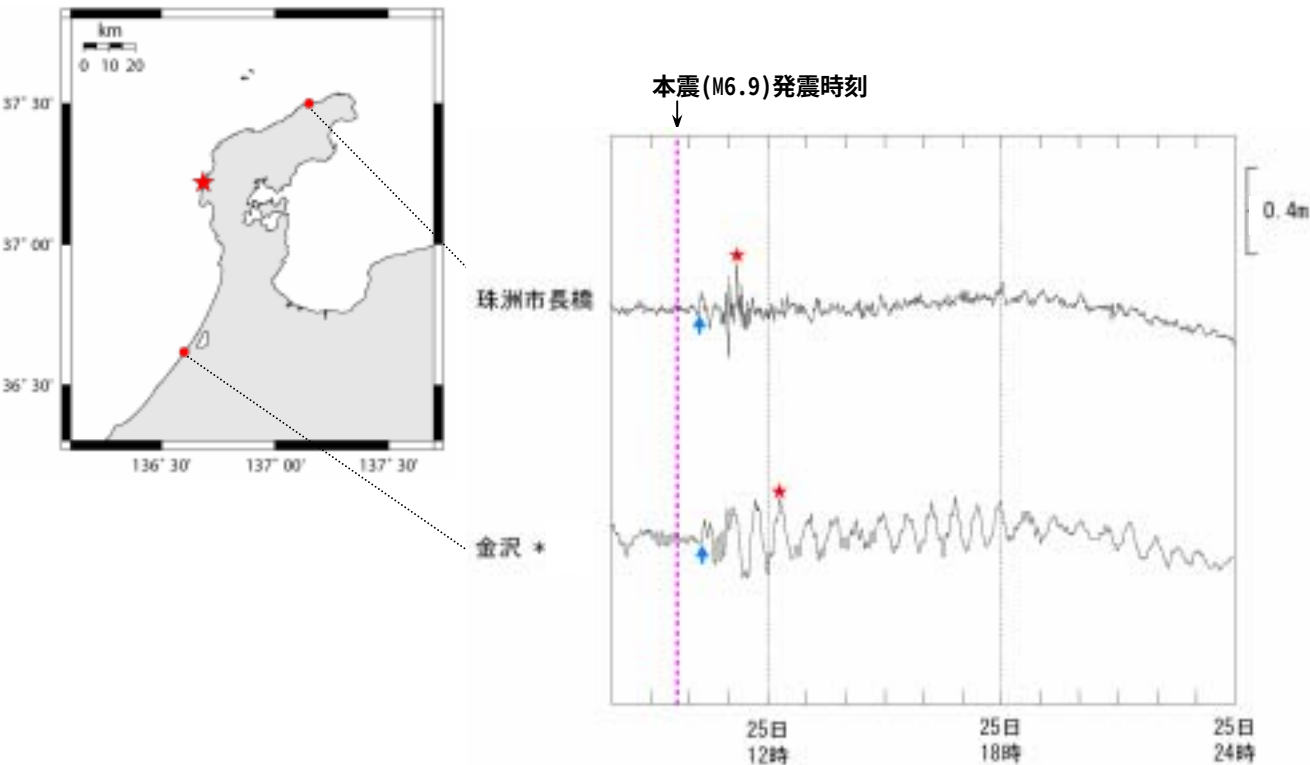


図1 検潮所の位置（左図）と検潮所で観測した津波の波形（右図）
右図において、点線は本震の発生時刻、▲は第一波の到達時刻、★印は最大の高さの発現時刻を示す。

表1 今回の地震に伴って観測した津波の観測値

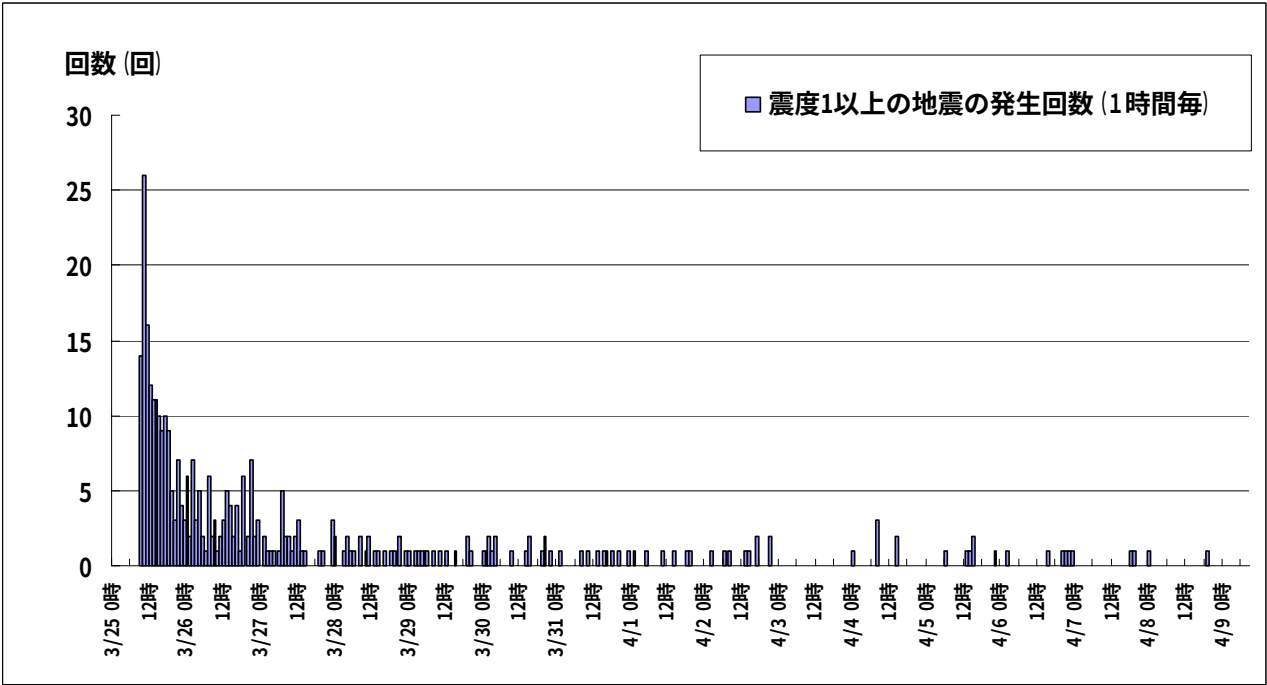
観測点名	第一波		最大の高さ	
	到達時刻	高さ(cm)	発現時刻	高さ (cm)
珠洲市長橋	10 時 15 分	9	11 時 13 分	22
金沢*	10 時 21 分	8	12 時 21 分	18

今回の地震によって、津波が観測された検潮所における観測値を示している。
*の金沢観測点は国土交通省北陸地方整備局の所属である。
また、表中の値は暫定値であり、後日変更される場合がある。

平成 19 年(2007 年)能登半島地震 (3 月 25 日 09 時 41 分～)
最大震別有感地震回数表
＊この資料は速報値であり、後日の調査で変更されることがあります。

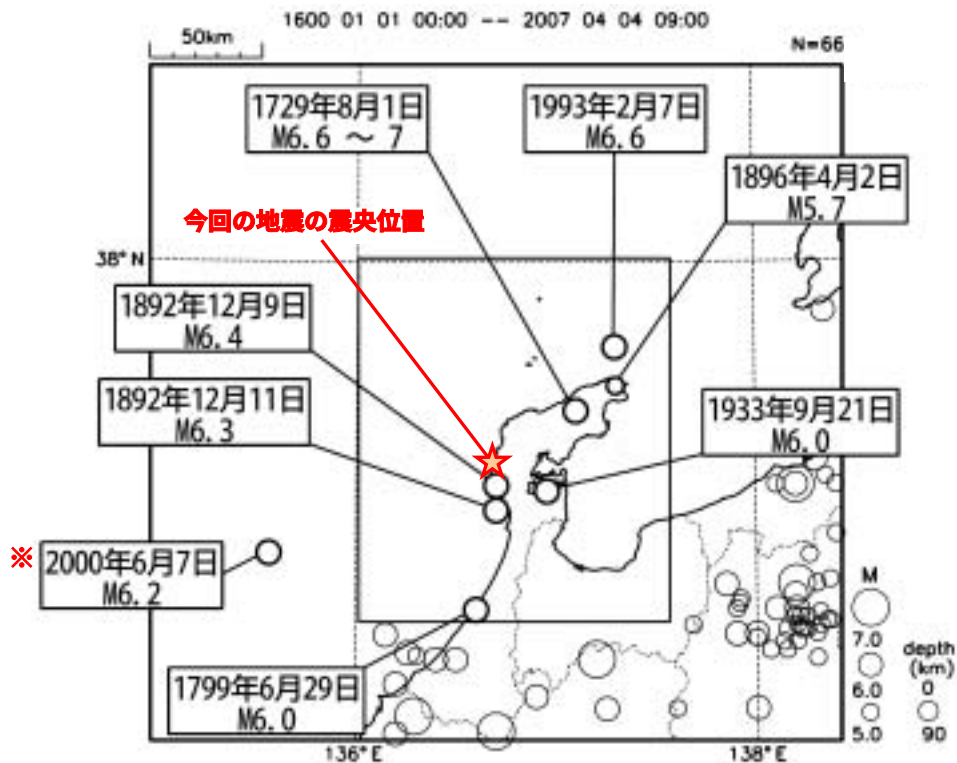
期 間	最大震度別回数										震度1以上を 観測した地震		備考
	1	2	3	4	5 弱	5 強	6 弱	6 強	7		回数	累計	
3/25 09:00-24:00	92	39	15	2	1	0	0	1	0		150	150	
3/26	54	17	5	2	1	0	0	0	0		79	229	
3/27	20	6	2	0	0	0	0	0	0		28	257	
3/28	13	2	3	1	1	0	0	0	0		20	277	
3/29	10	3	0	0	0	0	0	0	0		13	290	
3/30	14	1	0	0	0	0	0	0	0		15	305	
3/31	7	1	1	0	0	0	0	0	0		9	314	
4/ 1	6	0	0	0	0	0	0	0	0		6	320	
4/ 2	5	2	2	0	0	0	0	0	0		9	329	
4/ 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	329	
4/ 4	3	2	1	0	0	0	0	0	0		6	335	
4/ 5	4	2	0	0	0	0	0	0	0		6	341	
4/ 6	3	0	2	1	0	0	0	0	0		6	347	
4/ 7	2	0	0	0	0	0	0	0	0		2	349	
4/ 8	1	1	0	0	0	0	0	0	0		2	351	
総計	234	76	31	6	3	0	0	1	0		351	351	

※この回数には本震を含む



能登半島付近の主な被害地震

震央分布図（1600 年以降、M5.0 以上の被害地震）



上図矩形内の主な地震における石川県での被害

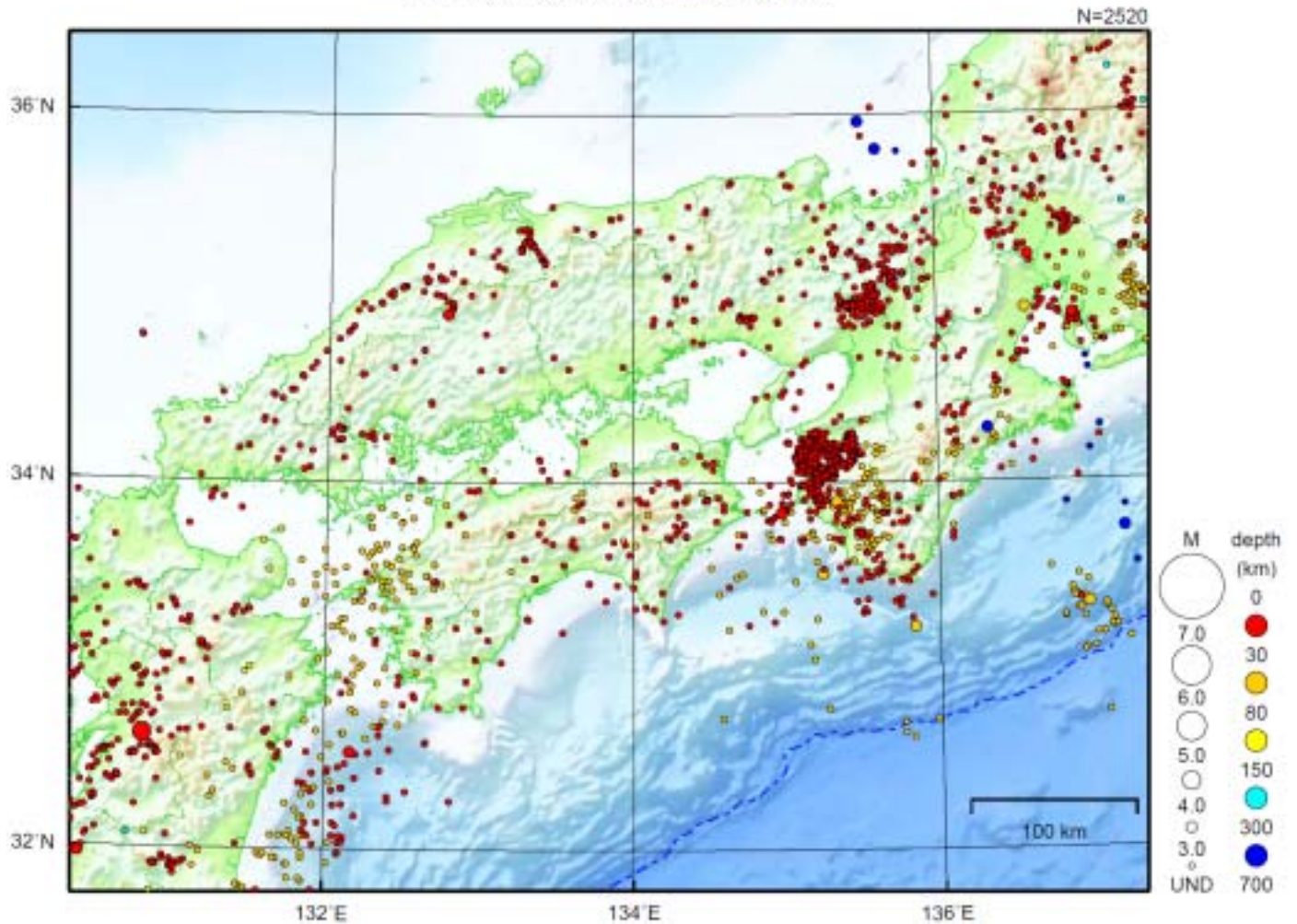
年月日	M	主な被害
1729. 8. 1	6.6~7	珠洲郡、鳳至郡で死者5、家屋全壊・同損壊791、輪島村で家屋全壊28。能登半島先端で被害が大きい。
1799. 6.29	6.0	金沢城下で家屋全壊26、能美・石川・河北郡で家屋全壊964、死者は全体で21
1892. 12. 9	6.4	羽咋郡高浜町・火打谷村で家屋破損あり。堀松村末吉で、死者1、負傷者5、家屋全壊2 (12月11日にも同程度の地震あり)
1933. 9.21	6.0	死者3、負傷者55、住家全壊2
1993. 2. 7	6.6	負傷者30 (重傷1、軽傷29 [うち1人は新潟県])

「日本の地震活動」,1997,地震調査委員会 に加筆

※ なお、最近では 2000 年 6 月 7 日の石川県西方沖の地震(M6.2)で負傷者 3 人の被害があった。

近畿・中国・四国地方

2007/03/01 00:00 ~ 2007/03/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

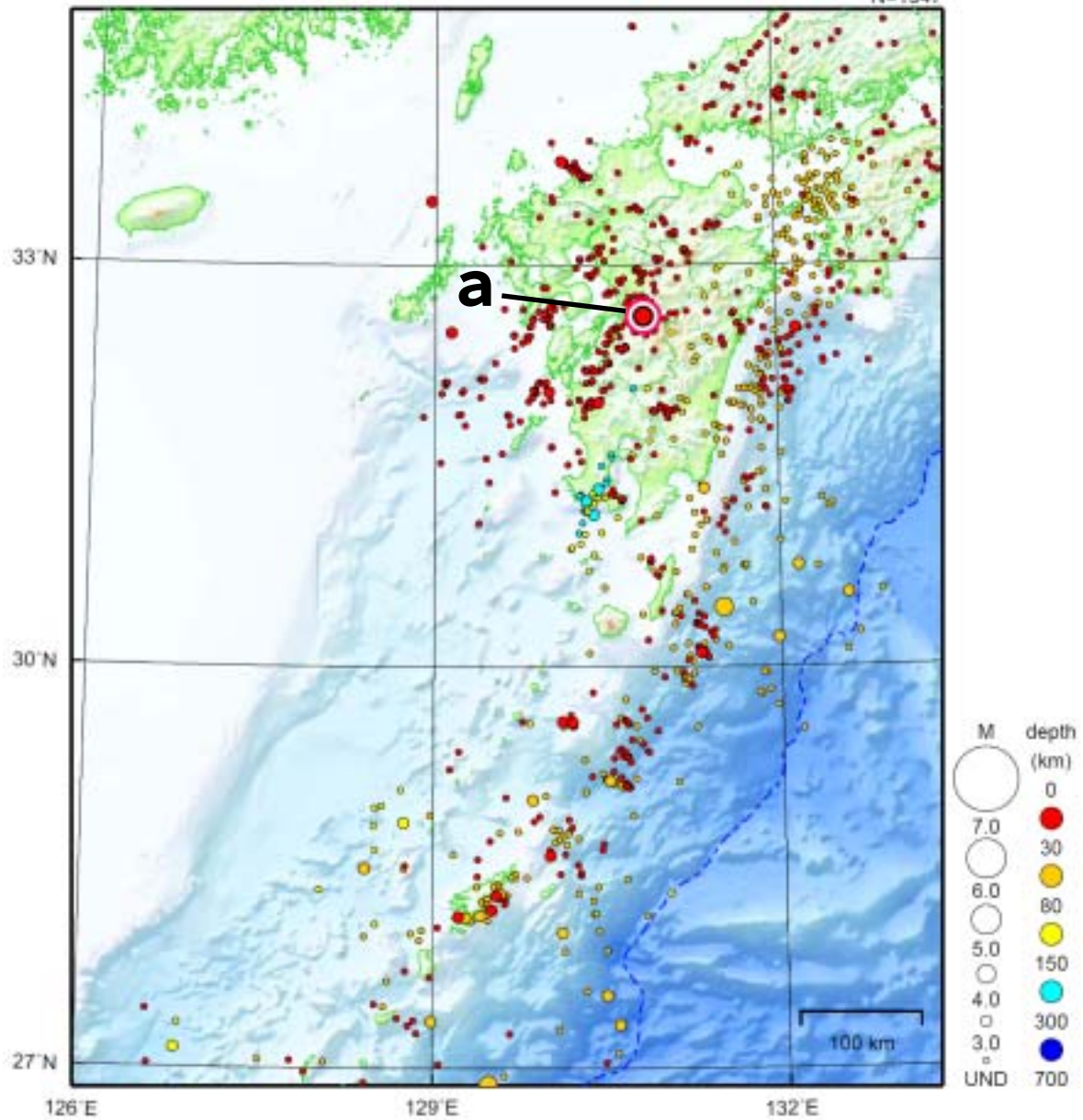
特に目立った活動はなかった。

[上述の地震はM6.0 以上、陸域でM4.0 以上かつ最大震度 3 以上、海域でM5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。]

九州地方

2007/03/01 00:00 ~ 2007/03/31 24:00

N=1347



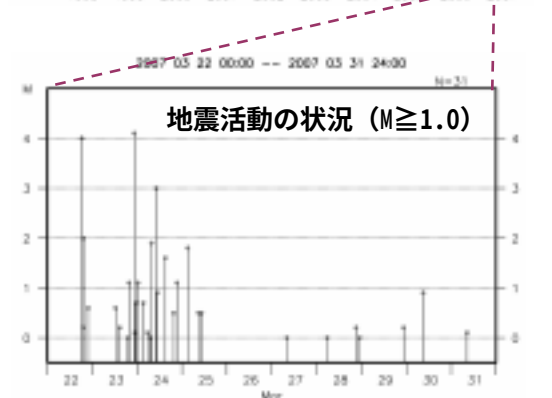
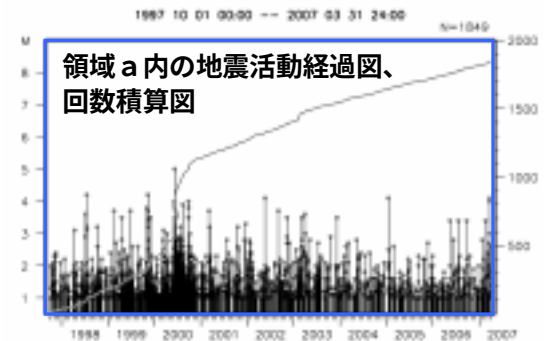
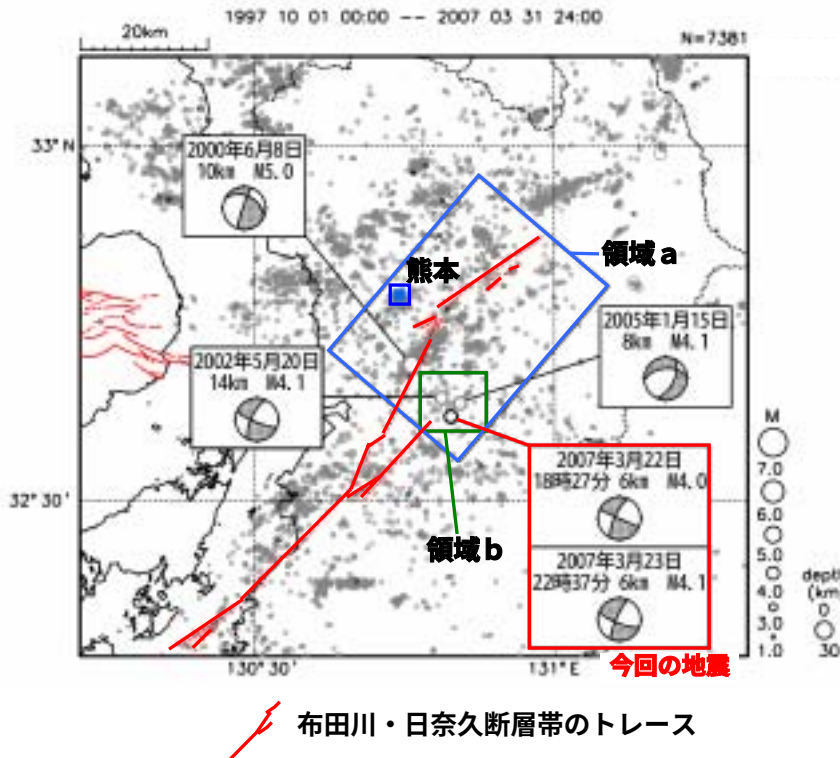
地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

a) 熊本県熊本地方で 3 月 22 日に M4.0（最大震度 3）、3 月 23 日に M4.1（最大震度 4）の地震があった。

[上述の地震は M6.0 以上、陸域で M4.0 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。]

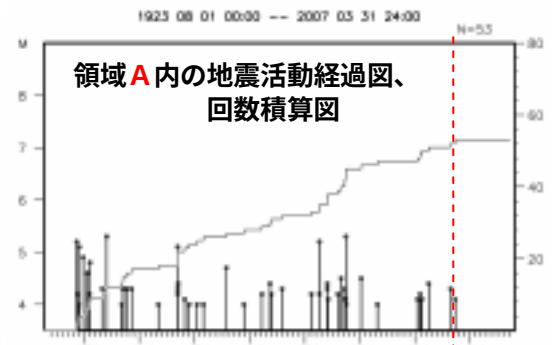
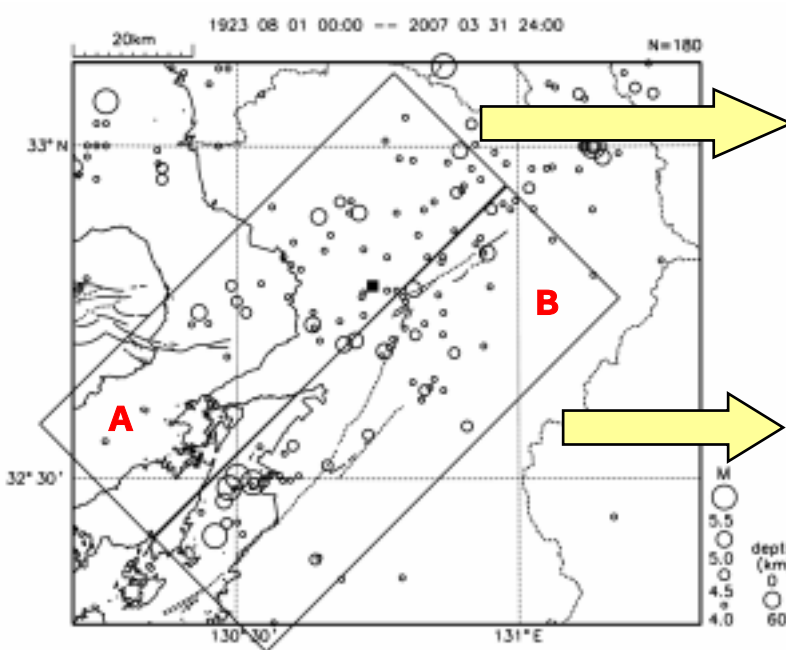
3月22、23日 熊本県熊本地方の地震

震央分布図（1997年10月以降、 $M \geq 1.0$ ）



2007年3月22日18時27分と3月23日22時37分に熊本県熊本地方の深さ6kmでM4.0（最大震度3）とM4.1（最大震度4）の地震が発生した。発震機構はともに北北西-南南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型で、この付近の地震によく見られるタイプであった。これらの地震を含め、3日間程度、小規模ながらやや活発な地震活動があった。

震央分布図（1923年8月以降、 $M \geq 4.0$ ）

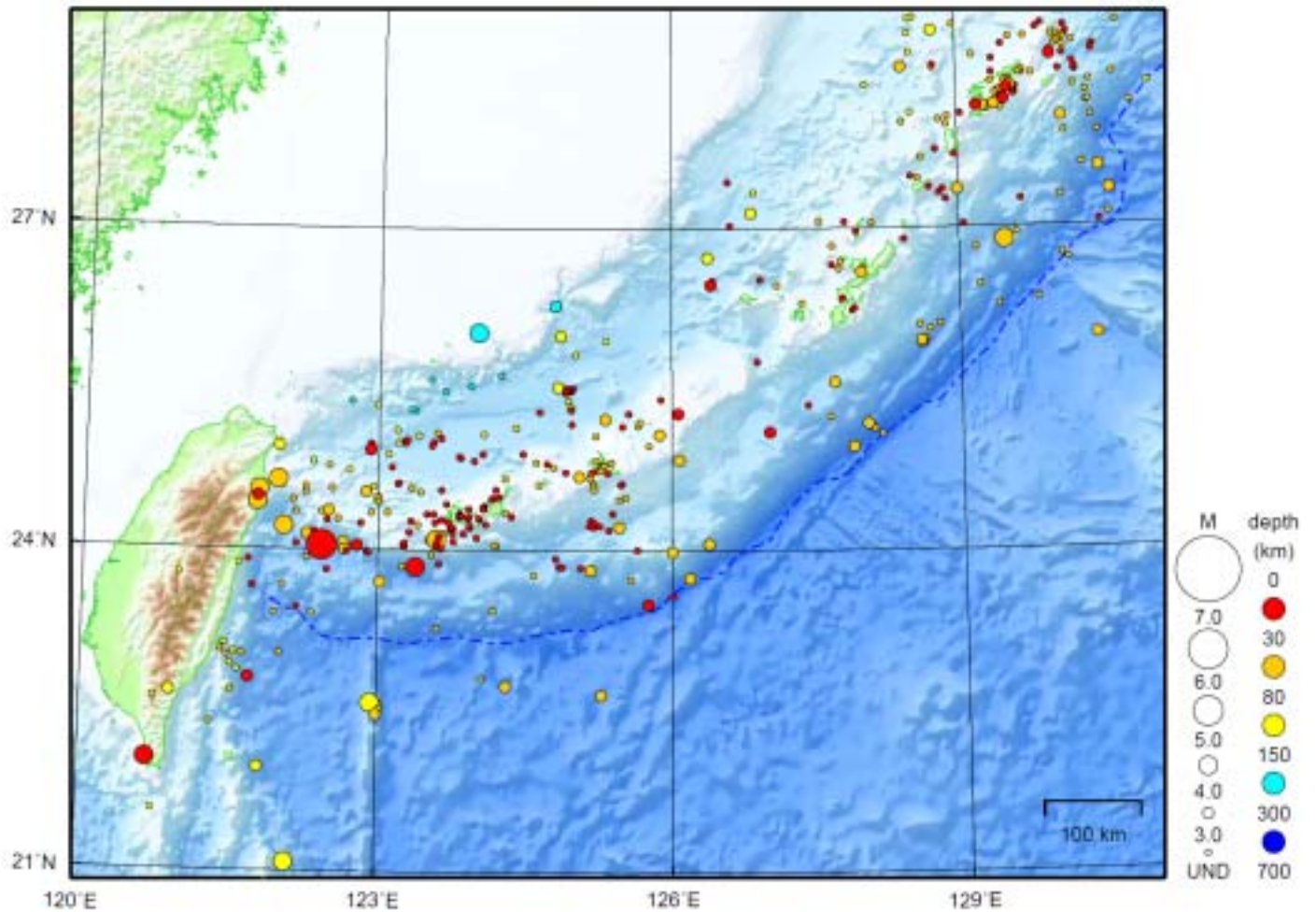


1923年8月以降の布田川・日奈久断層帯に沿った領域（B）と北側に隣接する領域（A）の活動をみると、1997年頃から非常に対照的に推移している。

沖縄地方

2007/03/01 00:00 ~ 2007/03/31 24:00

N=425



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った活動はなかった。

[上述の地震はM6.0 以上、陸域でM4.0 以上かつ最大震度3 以上、海域でM5.0 以上かつ最大震度3 以上のいずれかに該当する地震。]

●東海地震の想定震源域及びその周辺の地震活動

[概況]

特に目立った活動はなかった。

[地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会検討結果]

3月26日に気象庁において第250回地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会(定例会)を開催し、気象庁は「最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動」として次のコメントを発表した(図2～3)。

現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。

全般的には顕著な地震活動はありません。浜名湖東方から静岡県中部の直下では通常より活動レベルの低い状態になっていますが、その他の地域では概ね平常レベルです。

東海地域及びその周辺の地殻変動には注目すべき特別な変化は観測されていません。

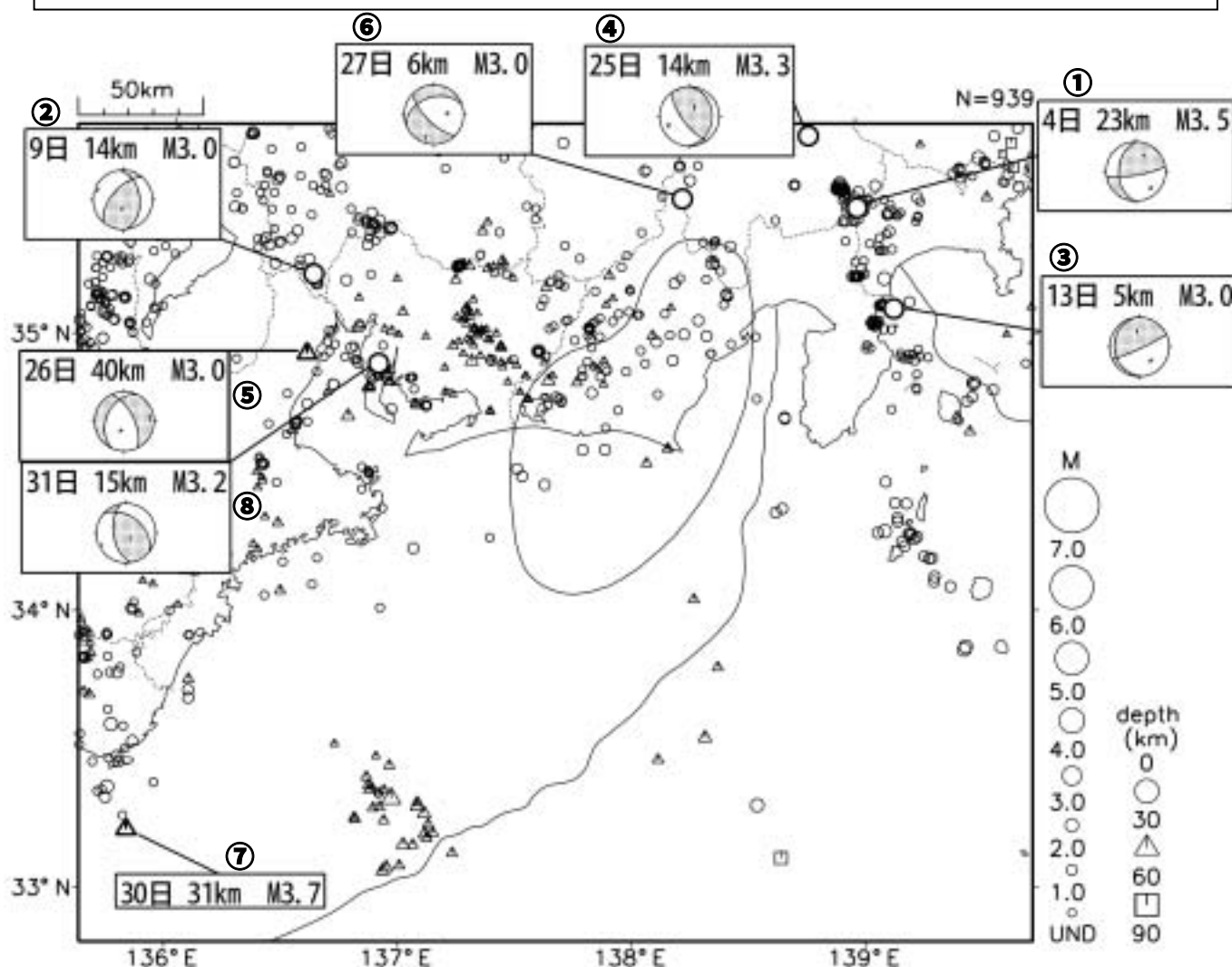


図1 震央分布図(2007年3月1日～31日:深さ90km以浅、Mすべて。M3.0以上の地震(東海道沖はM4.0以上)に「日、深さ、M」を付けた。すぐ下の図はP波初動による発震機構(下半球投影)。図中のナス型の領域は東海地震の想定震源域。)

- ① 4日14時16分、神奈川県西部の深さ23kmでM3.5の地震があり、最大震度2を観測した。発震機構は北西-南東方向に圧力軸を持つ型で、フィリピン海プレートと陸のプレートが衝突している場所で発生した地震と考えられる。
- ② 9日19時42分、岐阜県美濃中西部の深さ14kmでM3.0の地震があり、最大震度1を観測した。発震機構は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、陸域の地殻内で発生した地震である。
- ③ 13日09時14分、伊豆半島東方沖の深さ5km

で M3.0 の地震があり、最大震度 1 を観測した。発震機構は北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。

- ④ 25 日 00 時 50 分、山梨県中・西部の深さ 14km で M3.3 の地震があり、最大震度 2 を観測した。発震機構は東北東－西南西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、陸域の地殻内で発生した地震である。
- ⑤ 26 日 01 時 13 分、三重県北部の深さ 40km で M3.0 の地震があった。発震機構は東西に張力軸を持つ正断層型で、フィリピン海プレート内で発生した地震である。
- ⑥ 27 日 17 時 27 分、静岡県中部の深さ 6km で M3.0 の地震があった。発震機構は東西方向に圧力軸を持つ型で、陸域の地殻内で発生した地震

である。

- ⑦ 30 日 11 時 07 分、和歌山県南方沖の深さ 31km で M3.7 の地震があり、最大震度 1 を観測した。
- ⑧ 31 日 02 時 28 分、愛知県西部の深さ 15km で M3.2 の地震があり、最大震度 2 を観測した。発震機構は東北東－西南西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、陸域の地殻内で発生した地震である。

注：本文中の番号は、図 1 中の数字に対応する。

[東海地域の地震活動の頁で使われる用語]

・「想定震源域」(図 1) と「固着域」(図 2)

東海地震発生時には、「固着域」(プレート間が強く「くっついている」と考えられている領域)あるいはその周辺の一部からゆっくりしたずれ(前兆すべり)が始まり、最終的には「想定震源域」全体が破壊すると考えられている。

・「クラスタ除去」(図 2、3)

地震は時間空間的に群(クラスタ: cluster)をなして起きることが多くある。「本震とその後に起きる余震」、「群発地震」などが典型的な群(クラスタ)で、余震活動等の影響を取り除いて地震活動全体の推移を見ることを「クラスタ除去」と言う。震央距離が 3 km 以内、発生時間差が 7 日以内の地震をクラスタと見なし、最大地震で代表させている。

大規模な地震から国民の生命・財産を保護することを目的として、昭和 53 年(1978 年)12 月に施行された「大規模地震対策特別措置法」では、大規模な地震の発生のおそれがあり、その地震によって大きな被害が予想されるような地域をあらかじめ「地震防災対策強化地域(以下、「強化地域」という。))として指定し、地震予知のための観測施設の整備を強化し、あらかじめ地震防災に関する計画をたてる等、各種の措置を講じることとしている。強化地域は平成 14 年(2002 年)4 月に見直しが行われ、現在、静岡県全域と東京都、神奈川・山梨・長野・岐阜・愛知及び三重の各県にまたがる 174 市町村(平成 18 年 4 月現在)が強化地域に指定されている。強化地域では、マグニチュード 8 クラスと想定されている大地震(東海地震)が起こった場合、震度 6 弱以上(一部地域では震度 5 強程度)になり、沿岸では大津波の来襲が予想されている。気象庁では東海地震の直前の前兆現象を捕らえるため、地震、地殻変動等の観測データを常時監視している。

東海地域の地震活動指数

(クラスタを除いた地震回数による)

2007年3月21日 現在

	① 固着域		② 愛知県		③ 浜名湖			④ 駿河湾
	地殻内	フィリ ピン海 プレート	地殻内	フィリ ピン海 プレート	フィリピン海プレート内			全域
					西側	全域	東側	
短期活動指数	6	6	5	6	4	2	2	3
短期地震回数 (平均)	9 (6.24)	8 (5.82)	16 (13.08)	19 (13.98)	1 (2.38)	2 (5.83)	1 (3.45)	4 (6.06)
中期活動指数	5	6	5	7	1	0	2	4
中期地震回数 (平均)	22 (18.73)	22 (17.45)	43 (39.23)	53 (41.94)	1 (4.76)	4 (11.66)	3 (6.90)	11 (12.12)

* Mしきい値：

M $\geq$ 1.1：固着域、愛知県、浜名湖、M $\geq$ 1.4：駿河湾

* クラスタ除去：

震央距離が Δr 以内、発生時間差が Δt 以内の地震をグループ化し、最大地震で代表させる。

$\Delta r=3\text{km}$ 、 $\Delta t=7\text{日}$ ：固着域、愛知県、浜名湖

$\Delta r=10\text{km}$ 、 $\Delta t=10\text{日}$ ：駿河湾

* 対象期間：

短期：30日間（固着域、愛知県）、90日間（浜名湖、駿河湾）

中期：90日間（固着域、愛知県）、180日間（浜名湖、駿河湾）

* 基準期間：

1997年—2001年（5年間）：固着域、愛知県、1998年—2000年（3年間）：浜名湖

1991年—2000年（10年間）：駿河湾

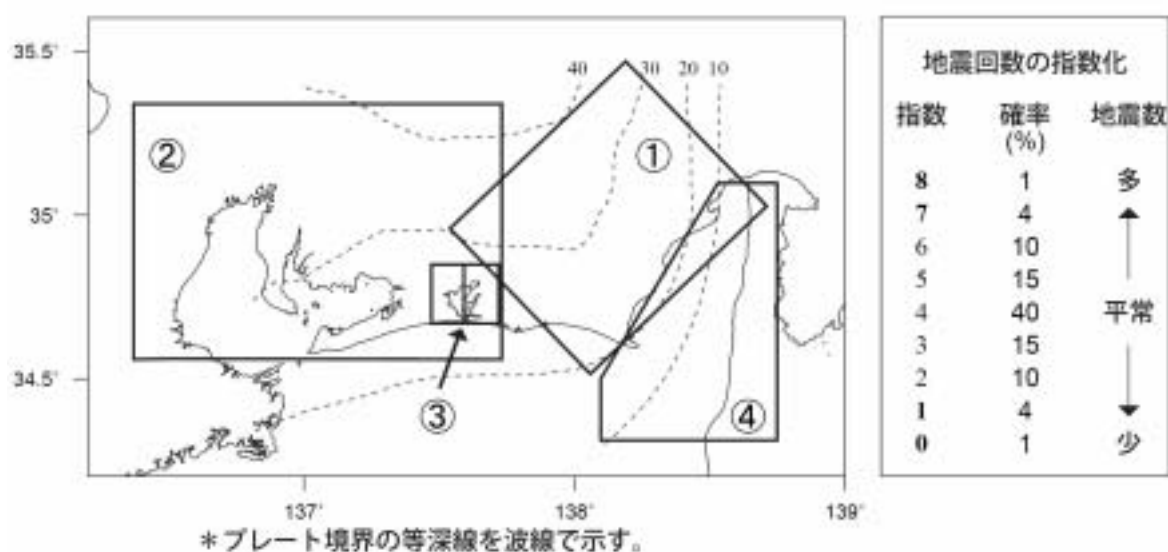


図2 東海地域の地震活動指数

浜名湖は、活動指数の低い状態が続いている。愛知県のフィリピン海プレート内は2007年に入ってから地震活動がやや活発になっている。それ以外の地域は、ほぼ平常の活動であった。（注：今回から愛知県領域を西に拡大。）

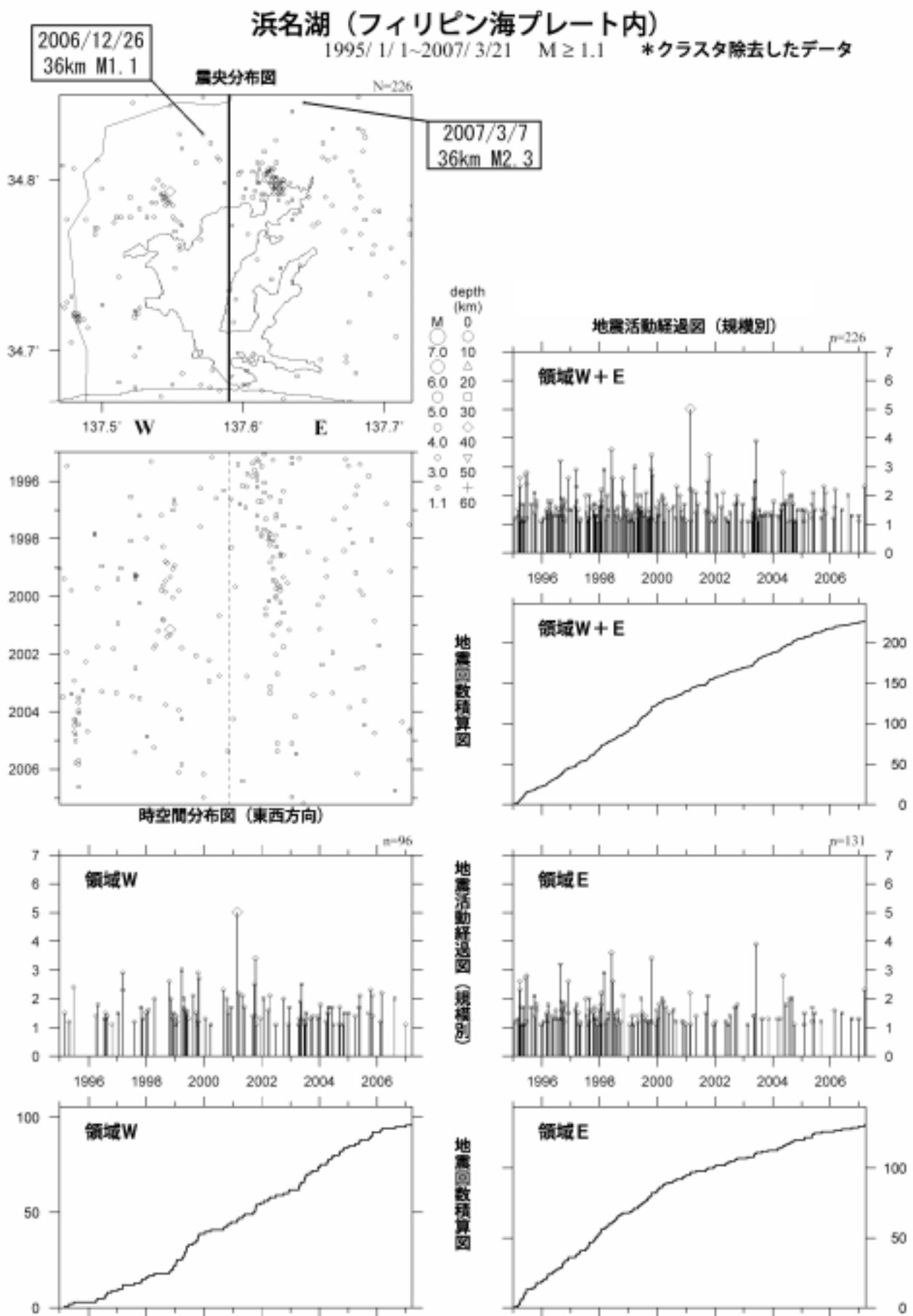


図3 浜名湖付近のフィリピン海プレート内の地震活動

領域Eでは2000年終わりごろからの活動の低下が継続している。領域Wもここ数ヶ月はやや静かになっている。

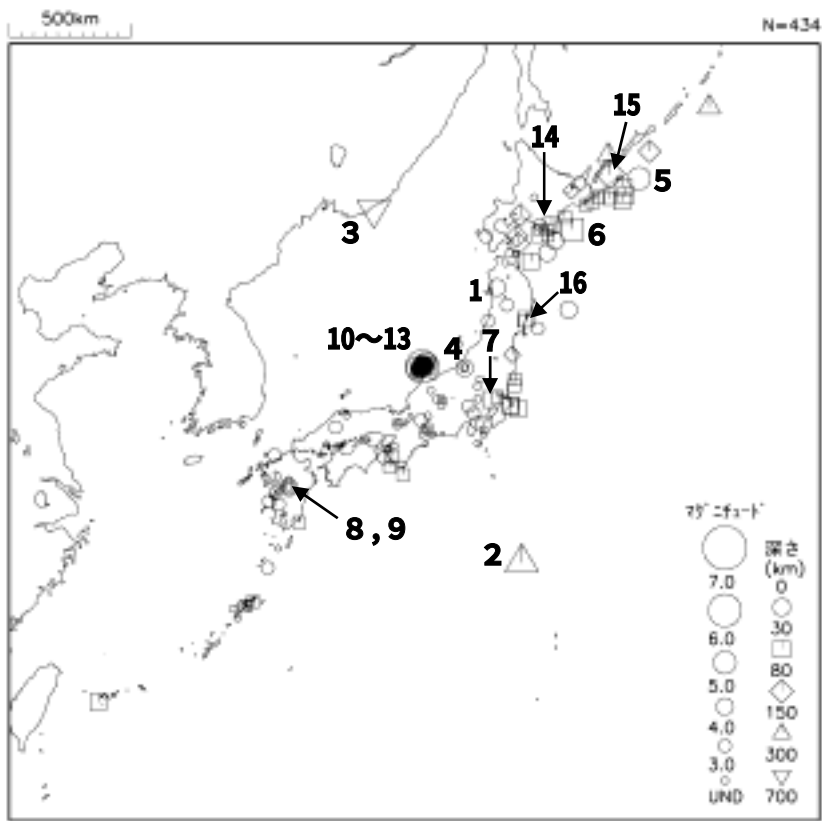


図1 2007年3月に震度1以上を観測した地震
(図中の番号は、表のNoに対応する地震)

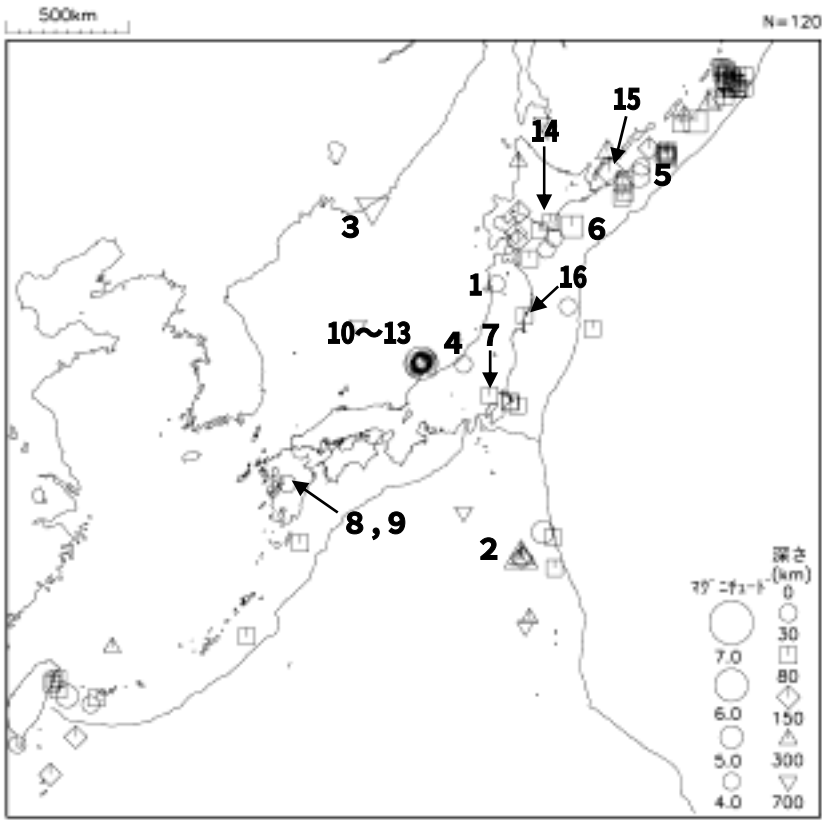


図2 2007年3月に発生したM4.0以上の地震
(図中の番号は、表のNoに対応する地震)

総数：9,028

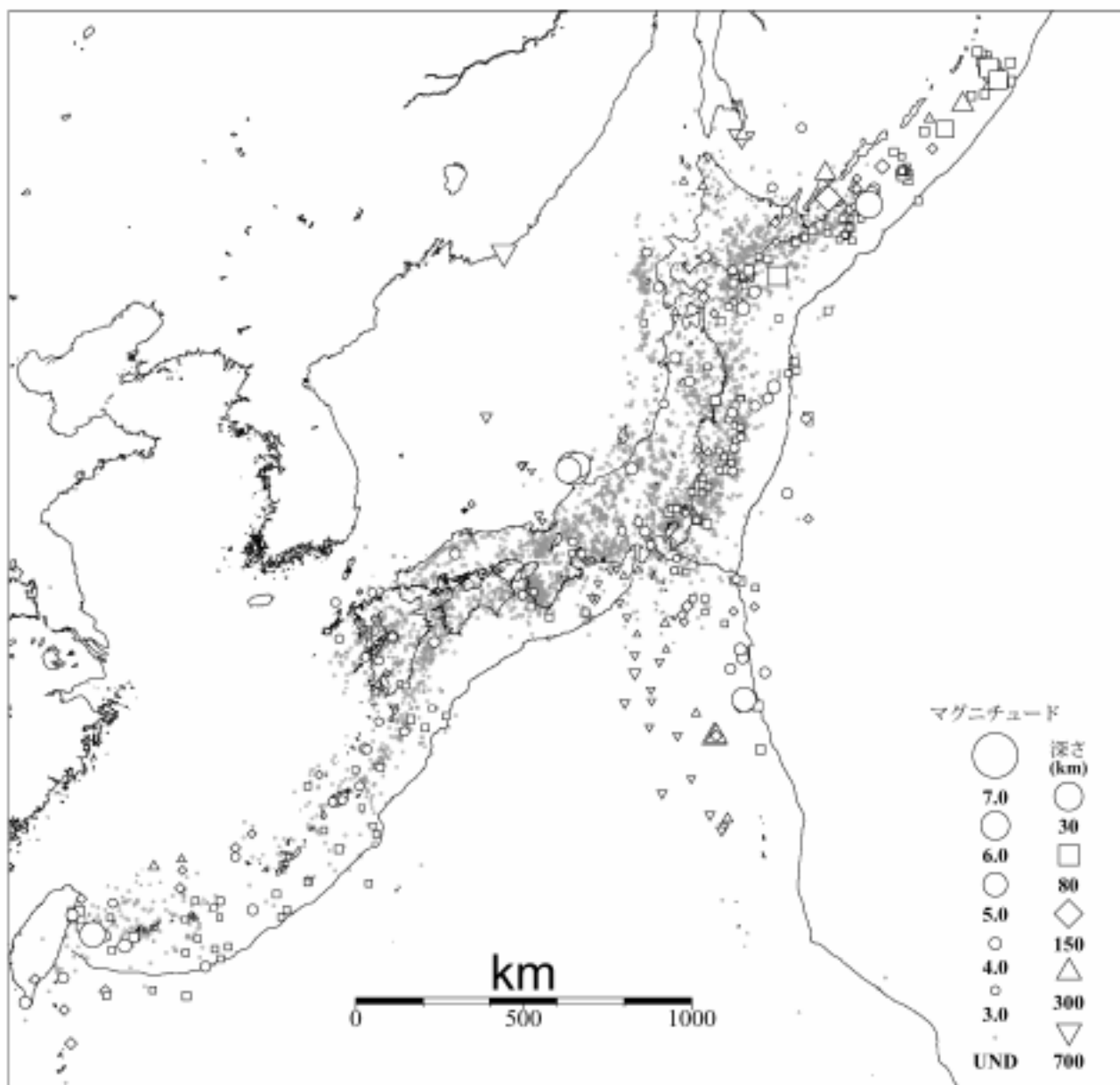


図3 気象庁が震源を決定した日本付近の2007年3月の地震の震央分布
(M3.0以上の地震については白抜きで示す)

● 表1. 過去1年間に震度1以上を観測した地震の最大震度別の月別回数
 ＜平成18年（2006年）3月～平成19年（2007年）3月＞

	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	計	記事
2007年3月	280	107	36	7	3			1		434	平成19年(2007年)能登半島地震 (震度6強:1回、震度5弱:3回、 震度4:5回、震度3:26回、 震度2:69回、震度1:210回)
2007年2月	62	21	3	1						87	
2007年1月	63	28	10	1						102	新島・神津島近海 (震度2:3回、震度1:11回)
2006年12月	82	46	14	3						145	新島・神津島近海(震度4:1回、 震度3:6回、震度2:12回、 震度1:14回)
2006年11月	98	22	11	4						135	新島・神津島近海 (震度3:2回、震度2:2回、 震度1:8回)
2006年10月	73	23	5	1						102	
2006年9月	64	21	11	1						97	
2006年8月	63	22	8	1						94	
2006年7月	82	24	12	3						121	新島・神津島近海(震度4:2回、 震度3:2回、震度2:5回、 震度1:15回)
2006年6月	59	34	6	2	1					102	12日 大分県西部(震度5弱)
2006年5月	81	20	6	2						109	
2006年4月	89	47	22	3	1					162	30日 伊豆半島東方沖(震度5弱:1回、 震度4:1回、震度3:4回、 震度2:6回、震度1:33回)
2006年3月	66	31	11		1					109	27日 日向灘(震度5弱)
2007年計	405	156	49	9	3			1		623	(平成19年1月～平成19年3月)
過去1年計	1096	415	144	29	5			1		1690	(平成18年4月～平成19年3月)

注)①「記事」欄の「*」は関連の地震で震度1以上を観測した地震の回数。「記事」欄には主に震度5弱以上を観測した地震、または震度1以上を10回以上観測した地震活動について記載した。

②地方公共団体等の震度計による震度の発表開始年月日。

平成9(1997)年11月10日 秋田県、埼玉県、横浜市(神奈川県)、新潟県、愛知県、大阪府、奈良県、和歌山県、岡山県、山口県

平成10(1998)年6月15日 群馬県、福井県、静岡県、三重県、島根県、愛媛県

10月15日 青森県、山形県、茨城県、石川県、京都府、兵庫県、鳥取県、広島県、徳島県、熊本県、
宮崎県、鹿児島県

平成11(1999)年7月21日 東京都、長野県

平成12(2000)年1月12日 栃木県、千葉県、岐阜県、名古屋(愛知県)

3月28日 滋賀県

7月18日 富山県、香川県、大分県

平成13(2001)年3月22日 佐賀県 5月10日 山梨県、川崎市(神奈川県)

7月19日 高知県 12月12日 福島県

平成14(2002)年3月20日 岩手県、宮城県、神奈川県、福岡県、仙台市(宮城県)

7月29日 北海道、長崎県

平成15(2003)年3月10日 沖縄県

平成16(2004)年5月26日 独立行政法人防災科学技術研究所

● 表 2．日本及びその周辺におけるマグニチュード (M)別の月別地震回数
 ＜平成 18 年（2006 年）3 月～平成 19 年（2007 年）3 月＞

	M3.0 ～ M3.9	M4.0 ～ M4.9	M5.0 ～ M5.9	M6.0 ～ M6.9	M7.0 以上	計 M3.0以上	計 M4.0以上	記事
2007年 3 月	458	104	13	3		578	120	8 日：鳥島近海(M6.0) 9 日：日本海北部(M6.2) 25 日：平成19年（2007年）能登半島地震(M6.9) 能登半島地震の余震 (M3.0～3.9：203回、M4.0～4.9：27回、 M5.0～5.9：3回)
2007年 2 月	233	57	9	1		300	67	17 日：十勝沖(M6.2)
2007年 1 月	244	113	24	2	2	385	141	13 日：千島列島東方(M8.2) 14 日：千島列島東方(M6.5) 25 日：台湾付近(M6.1) 31 日：マリアナ諸島(M7.1)
2006年12月	274	107	26	2	1	410	136	8 日：千島列島東方(M6.4) 26 日：台湾付近(M6.9、M7.2)
2006年11月	254	76	42	3	1	376	122	15 日：千島列島東方(M7.9、M6.6) 16 日：千島列島東方(M6.1) 18 日：奄美大島近海(M6.0)
2006年10月	254	75	19	7		355	101	1 日：千島列島東方(M6.8、M6.6) 9 日：台湾南方沖(M6.1) 11 日：福島県沖(M6.0) 12 日：与那国島近海(M6.2) 13 日：千島列島東方(M6.3) 24 日：鳥島近海(M6.8)
2006年 9 月	268	62	10	1		341	73	28 日：千島列島東方(M6.0)
2006年 8 月	263	57	10	1		331	68	7 日：父島近海(M6.2)
2006年 7 月	232	40	3	1		276	44	28 日：台湾付近(M6.2)
2006年 6 月	268	59	10	1		338	70	12 日：大分県西部(M6.2)
2006年 5 月	239	53	4			296	57	
2006年 4 月	269	89	13	2		373	104	1 日：台湾付近(M6.4) 16 日：台湾付近(M6.0)
2006年 3 月	287	66	9	1		363	76	28 日：東海道沖(M6.0)
2007年計	935	274	46	6	2	1263	328	(平成19年 1 月～平成19年 3 月)
過去 1 年計	3256	892	183	24	4	4359	1103	(平成18年 4 月～平成19年 3 月)

注) 日本及びその周辺：原則、北緯20～49度、東経120～154度の範囲。「記事」欄には主にM6.0以上の地震について記載した。

●世界の主な地震

3月に世界で発生したマグニチュード（M）6.0以上または被害を伴った地震の震央分布を図1に示す。また、その震源要素等を表1に示す。

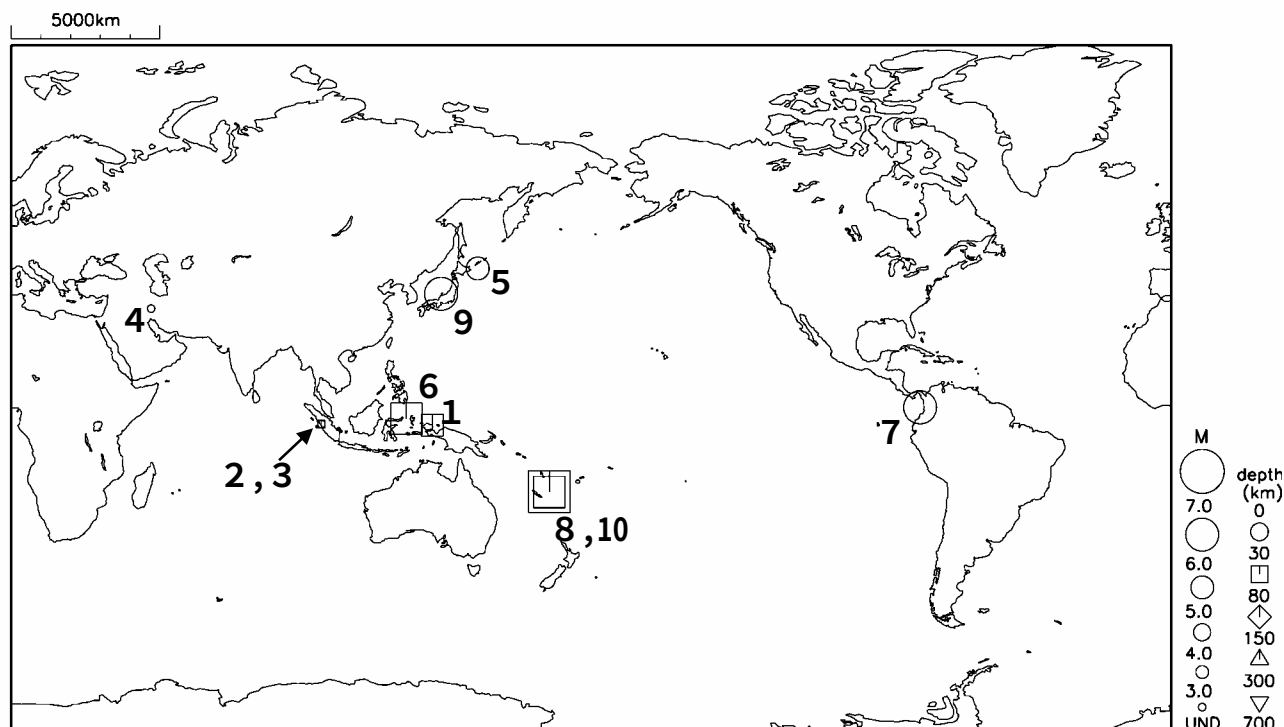


図1 2007年3月に世界で発生したM6.0以上または被害を伴った地震の震央分布

＜震源要素は米国地質調査所(USGS)発表の QUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による＞

*：数字は、表1の番号に対応する。

**：マグニチュードはmb（実体波マグニチュード）、Ms（表面波マグニチュード）のいずれか大きい値を用いて表示している。

***：日本付近で発生した地震については、震源要素及びマグニチュードは気象庁による。

表1 2007年3月に世界で発生したマグニチュード6.0以上または被害を伴った地震の震源要素等

番号	月 日 時 分	緯度	経度	深さ (km)	mb	Ms	Mw	震央地名	備考 (被害状況など)
1	03月03日13時04分	S 0° 50.6'E	134° 03.6'	38	5.0			インドネシア、イリアンジャヤ	住家破損など
2	03月06日12時49分	S 0° 30.7'E	100° 31.4'	19*			6.3	インドネシア、スマトラ南部	死者70名以上、負傷者数百名
3	03月06日14時49分	S 0° 29.4'E	100° 31.7'	30*			6.1	インドネシア、スマトラ南部	
4	03月07日07時32分	N33° 15.6'E	49° 01.2'	0*				イラン西部	負傷者35名、建物被害
5	03月11日16時09分	N43° 40.3'E	147° 46.2'	13	6.1	(5.6)	5.8	北海道東方沖	
6	03月18日02時42分	N 1° 07.8'E	126° 11.3'	35*	6.0	5.8	6.2	モルッカ海北部	
7	03月18日11時11分	N 4° 34.9'W	78° 31.1'	8*	6.4	5.7	6.1	パナマ南方	
8	03月25日09時40分	S20° 40.0'E	169° 25.6'	35*			7.1	バヌアツ諸島	
9	03月25日09時41分	N37° 13.2'E	136° 41.1'	11		(6.9)	6.7	能登半島沖	死者1名、負傷者327名、 住家全壊525棟、 住家半壊774棟、 住家一部破損6,414棟
10	03月25日10時08分	S20° 47.0'E	169° 24.5'	35*			6.9	バヌアツ諸島	

- ・震源要素、被害状況等は米国地質調査所(USGS)発表の QUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による（2007年4月8日現在）。ただし、日本付近で発生した地震については震源要素及びマグニチュード（Msの欄に括弧を付して記載）は気象庁、被害状況は総務省消防庁による（2007年4月9日10時現在）。
- ・時分は震源時で日本時間〔日本時間＝協定世界時＋9時間〕である。
- ・MwはUSGSのモーメントマグニチュードである。
- ・震源の深さに「*」が付いているのは、USGSが推定した深さである。

平成 19 年 3 月の主な火山活動

【噴火した火山】

- ▲ 桜 島 [比較的静穏な噴火活動（レベル 2）]
南岳山頂火口では小規模な噴火が時々発生した。
- ▲ 諏訪之瀬島 [活発な状況（レベル 3）]
4～5 日、17 日、30～31 日に爆発的噴火が発生した。

【活動が活発もしくはやや活発な状態であった火山】

- 樽前山 [やや活発な状況]
A 火口及び B 噴気孔群は依然として高温の状態が続いていると推定される。
- 御嶽山 [やや活発な状況]
火山性地震はやや多く、火山性微動も時々発生するなど、火山活動はやや活発な状況が続いており、山頂付近では注意が必要である。なお、御嶽山の地下の膨張を示すわずかな伸びの変化は、収まりつつあるように見える。
- 三宅島 [やや活発な状況]
噴煙活動は活発で、多量の火山ガスの放出が続いている。
- 硫黄島 [やや活発な状況]
国土地理院及び防災科学技術研究所の観測によると、昨年 8 月以降、島北部の元山地域付近で大きな隆起が続いている。
- 薩摩硫黄島 [やや活発な状況（レベル 2）]
噴煙活動はやや活発で、火山性地震のやや多い状態が続いている。
- 口永良部島 [やや活発な状況（レベル 2）]
火山性地震及び火山性微動のやや多い状態が続いている。

【期間中に静穏な状況となった火山】

- ◇ 霧島山（御鉢） [静穏な状況（レベル 1）] ← 5 日にやや活発な状況（レベル 2）から引き下げ
振幅の小さな火山性微動が時々発生する程度で地震増加もなく、火山活動は静穏な状況になっている。

注 1 本資料で示すレベルとは、現在 12 火山に導入している火山活動度レベルをいう。

注 2 火山名に下線を引いた火山について、説明資料（火山活動解説資料）を配布。

注 3 記号の意味

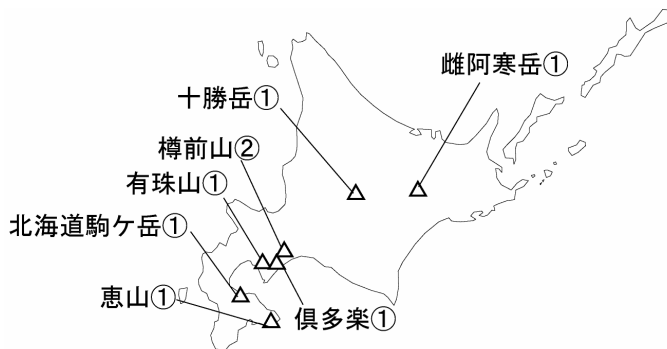
▲：噴火した火山

●：活動が活発もしくはやや活発な状況の火山

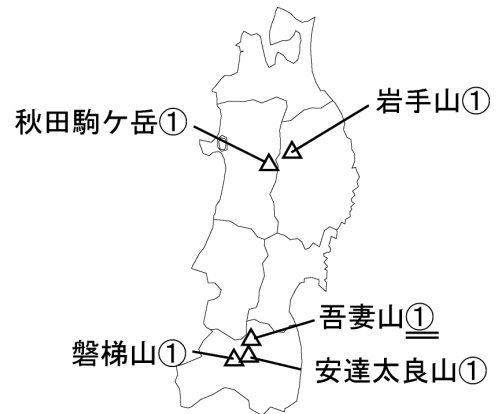
◇：静穏な状況であるが観測データ等に変化のあった火山、もしくはその他の記事を掲載した火山

解説を掲載した火山とその活動状況

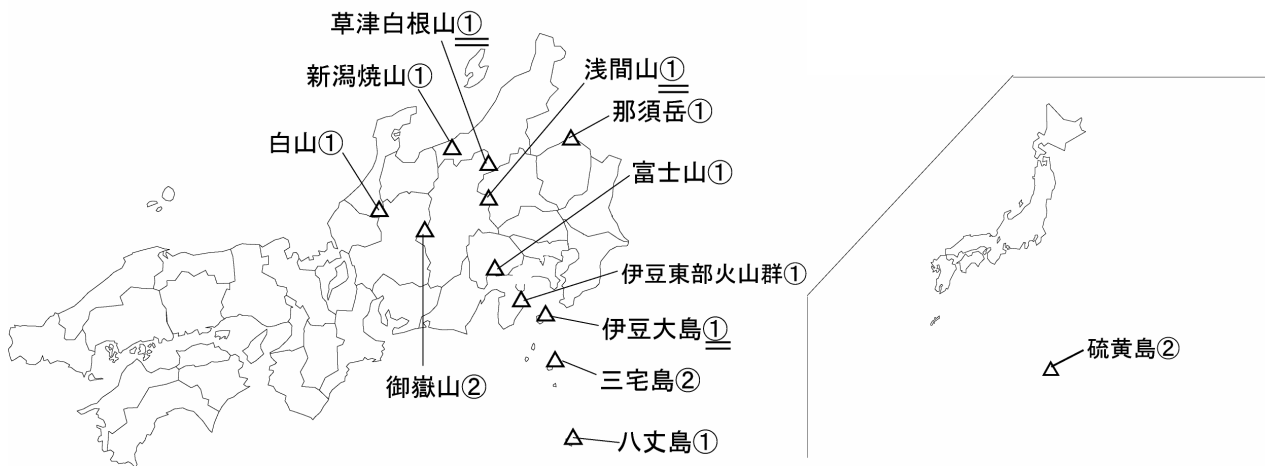
【北海道地方】



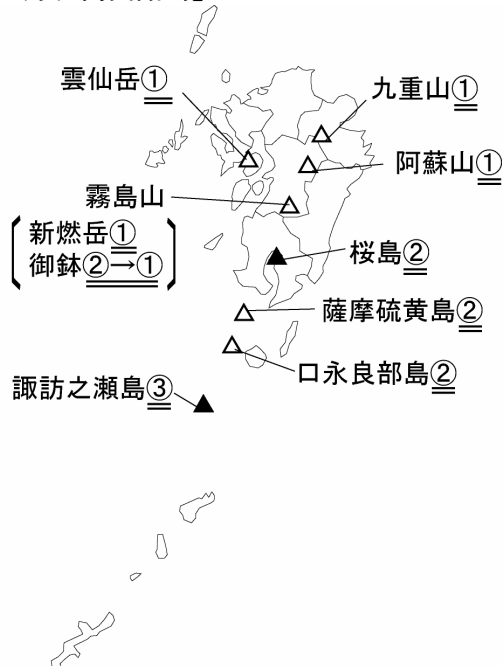
【東北地方】



【関東中部地方、伊豆小笠原諸島】



【九州地方、南西諸島】



その他、今月は摩周、アトサヌプリの火山活動解説資料を作成している。

注) 記号の意味

- ①：火山活動が静穏な状況もしくはレベル1
 - ②：火山活動がやや活発な状況もしくはレベル2
 - ③：火山活動評価が活発な状況もしくはレベル3
- 2重線を引いた記号はレベルを示す。

△：解説を掲載した火山

▲：解説を掲載した火山のうち噴火した火山

過去1年間の火山活動の状況（やや活発もしくは活発な状況であった火山）

火 山 名		平成18年										平成19年		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
雌 阿 寒 岳	噴火													
	活動	③	③	③→②	②	②→①	①	①	①	①	①	①	①	
十 勝 岳	噴火													
	活動	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②→①	①	
樽 前 山	噴火													
	活動	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	
浅 間 山	噴火													
	バール	②	②	②	②	②	②→①	①	①	①	①	①	①	
御 嶽 山	噴火													
	活動	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①→②	②	②	
三 宅 島	噴火					▲								
	活動	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	
硫 黄 島	噴火													
	活動	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①→②	②	②	
福 徳 岡 ノ 場	噴火													
	活動	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②		
阿 蘇 山	噴火													
	バール	②	②	②	②	②→①	①	①	①	①	①	①	①	
霧島山（新燃岳）	噴火													
	バール	②	②→①	①	①	①	①	①	①	①→②	②→①	①	①	
霧島山（御鉢）	噴火													
	バール	②	②→①	①	①	①	①	①	①	①	①	①→②	②→①	
桜 島	噴火	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	
	バール	②	②	②→③	③	③→②	②	②	②	②	②	②	②	
薩 摩 硫 黄 島	噴火													
	バール	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	
口 永 良 部 島	噴火													
	バール	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	
諏 訪 之 瀬 島	噴火	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	
	バール	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③	

（注）表中で、活動とは火山活動評価を示す。また、記号は以下のとおり

- ①：火山活動が静穏な状況もしくはレベル1
- ②：火山活動がやや活発な状況もしくはレベル2
- ③：火山活動が活発な状況もしくはレベル3
- ▲：噴火

2007 年 3 月の火山情報発表状況

火 山 名	情報の種類及び号数	発表日時	概 要
御 嶽 山	火山観測情報 第 12 号	2 日 14:00	最近の火山活動評価。2 月 26 日から 3 月 2 日 13 時までの活動状況。
	火山観測情報 第 13 号	8 日 16:00	最近の火山活動評価。3 月 2 日から 3 月 8 日 15 時までの活動状況。
	火山観測情報 第 14 号	16 日 16:00	最近の火山活動評価。3 月 8 日～3 月 16 日 15 時までの活動状況。
	火山観測情報 第 15 号	23 日 16:00	最近の火山活動評価。3 月 16 日～3 月 23 日 15 時までの活動状況。16 日及び 17 日に行った上空からの観測の結果。
	火山観測情報 第 16 号	30 日 16:00	最近の火山活動評価。3 月 23 日～3 月 30 日 15 時までの活動状況。
三 宅 島	火山観測情報 第 9～13 号 (週 1 回発表)	2 日、9 日 16 日、23 日、 30 日 16:30	最近の火山活動評価、火山活動の状況(噴煙・火山ガス・地震)。
霧 島 山	火山観測情報 第 3 号	5 日 15:00	火山活動は静穏な状況となったため、レベルを 2 から 1 に引き下げた。

全国の火山活動評価結果（3月31日現在）

（1）主な活火山（35 火山）

最近の活動経過は、火山活動度レベル導入火山（※）についてはレベル導入以降の、それ以外の火山（☆）については第 101 回火山噴火予知連絡会（平成 17 年 6 月 21 日開催）以降で最初に評価を明記した火山噴火予知連絡会開催日からの活動経過を示している。

（注）黒太字は平成 19 年 3 月に活動評価を変更した火山。

	火山名	火 山 活 動 評 価	
		3 月 31 日現在	最近の活動経過
北海道地方	☆ 雌阿寒岳	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏 平成 18 年 2 月 18 日 やや活発 3 月 21 日 【噴火】活発 4 月 12 日 やや活発 5 月 25 日 静穏
	☆ 十勝岳	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 やや活発 平成 19 年 2 月 16 日 静穏
	☆ 樽前山	やや活発な状況	平成 17 年 6 月 21 日 やや活発
	☆ 倶多楽	静穏な状況	平成 18 年 2 月 28 日 静穏
	☆ 有珠山	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏
	☆ 北海道駒ヶ岳	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏
	☆ 恵山	静穏な状況	平成 17 年 11 月 2 日 静穏
東北地方	☆ 岩手山	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏
	☆ 秋田駒ヶ岳	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏
	※ 吾妻山	静穏な状況	平成 17 年 2 月 1 日 静穏
	☆ 安達太良山	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏
	☆ 磐梯山	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏
関東・中部地方及び伊豆小笠原諸島	☆ 那須岳	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏
	※ 草津白根山	静穏な状況（レベル 1）	平成 17 年 2 月 1 日 静穏（レベル 1）
	※ 浅間山	静穏な状況（レベル 1）	平成 15 年 11 月 4 日 やや活発（レベル 2） 平成 16 年 7 月 20 日 静穏（レベル 1） 7 月 31 日 やや活発（レベル 2） 9 月 1 日 【噴火】活発（レベル 3） 平成 17 年 6 月 21 日 やや活発（レベル 2） 平成 18 年 9 月 22 日 静穏（レベル 1）
	☆ 新潟焼山	静穏な状況	平成 18 年 2 月 28 日 静穏
	☆ 御嶽山	やや活発な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏 平成 19 年 1 月 19 日 やや活発
	☆ 白山	静穏な状況	平成 17 年 11 月 2 日 静穏
	☆ 富士山	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏
	☆ 箱根山	静穏な状況	平成 18 年 11 月 14 日 静穏
	☆ 伊豆東部火山群	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏
	※ 伊豆大島	静穏な状況（レベル 1）	平成 15 年 11 月 4 日 静穏（レベル 1）
	☆ 三宅島	やや活発な状況	平成 17 年 6 月 21 日 やや活発
	☆ 八丈島	静穏な状況	平成 18 年 2 月 28 日 静穏
	☆ 硫黄島	やや活発な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏 平成 19 年 1 月 9 日 やや活発
	☆ 福徳岡ノ場	やや活発な状況	平成 17 年 11 月 2 日 やや活発

	火山名	火 山 活 動 評 価	
		3月31日現在	最近の活動経過
九州地方・南西諸島	※ 九重山	静穏な状況（レベル1）	平成17年2月1日 静穏（レベル1）
	※ 阿蘇山	静穏な状況（レベル1）	平成15年11月4日 やや活発（レベル2） 平成16年1月14日 【噴火（土砂噴出）】 活発（レベル3） 2月13日 やや活発（レベル2） 平成17年4月14日 【噴火（土砂噴出）】 活発（レベル3） 5月13日 やや活発（レベル2） 平成18年1月20日 静穏（レベル1） 3月24日 やや活発（レベル2） 8月4日 静穏（レベル1）
	※ 雲仙岳	静穏な状況（レベル1）	平成15年11月4日 静穏（レベル1）
	※ 霧島山（新燃岳）	静穏な状況（レベル1）	平成17年2月1日 静穏（レベル1） 平成18年2月1日 やや活発（レベル2） 5月22日 静穏（レベル1） 平成18年12月3日 やや活発（レベル2） 平成19年1月9日 静穏（レベル1）
	※ 霧島山（御鉢）	静穏な状況（レベル1）	平成17年2月1日 やや活発（レベル2） 平成18年5月22日 静穏（レベル1） 平成19年2月5日 やや活発（レベル2） 平成19年3月5日 静穏（レベル1）
	※ 桜島	比較的静穏な噴火活動（レベル2）	平成15年11月4日 比較的静穏な噴火活動（レベル2） 平成18年6月12日 【昭和火口から噴火】 活発（レベル3） 8月18日 比較的静穏な噴火活動（レベル2）
	※ 薩摩硫黄島	やや活発な状況（レベル2）	平成17年2月1日 やや活発（レベル2）
	※ 口永良部島	やや活発な状況（レベル2）	平成17年2月1日 やや活発（レベル2）
	※ 諏訪之瀬島	活発な状況（レベル3）	平成17年2月1日 【噴火継続】 活発（レベル3）
	☆ 硫黄島	静穏な状況	平成19年2月16日 静穏

（2）その他の活火山（50火山）

以下の活火山では、いずれも火山活動は静穏な状況である。

	火 山 名
北海道地方	知床硫黄山、羅臼岳、摩周、アトサヌブリ、丸山、大雪山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島
東北地方	恐山、岩木山、八甲田山、十和田、秋田焼山、八幡平、鳥海山、栗駒山、鳴子、肘折、蔵王山、沼沢、燧ヶ岳
関東・中部地方 及び伊豆・小笠原諸島	高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、焼岳、アカランダナ山、乗鞍岳、利島、新島、神津島、御蔵島、青ヶ島
中国・九州地方 及び南西諸島	三瓶山、阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島

● 世界の主な火山活動

平成 19 年（2007 年）3 月に噴火の報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。
このうち、顕著な活動が見られた主な火山は以下のとおりである。

ツングラグア（エクアドル）（図中A）

活発な噴火活動が続いている。噴石が火口から 300～500m の範囲に飛散し、噴煙は最高で火口縁上 7,000m に達した。噴火により、火口から北西～南西側約 13km の範囲で降灰が観測された。また、たびたび火山泥流が発生した。

（以上、米国スミソニアン自然史博物館の GVP（Global Volcanism Program）による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。）

